

2025 年度 部局 FD 活動報告

現代システム科学域・現代システム科学研究科

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代システム科学域FD会議(実施責任者:学域長),現代システム科学研究科教学アセスメント実施委員会(実施責任者:研究科長)を設置し,アセスメントリストにおける年次点検評価を行っている。 ・現代システム科学域・研究科の教務委員会においてFDに関する議題を取り上げ,教務委員会全体として,学域・研究科のFD活動を推進している。 ・各学類会議にて,FD関連事項を全教員に共有している。 		
<p>2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
2025年5月22日	第1回現代システム科学研究科交流研究発表会 橋爪太作(人間科学分野)	31名
2025年6月19日	第2回現代システム科学研究科交流研究発表会 畑野快(認知行動科学分野)	19名
2025年7月17日	第3回現代システム科学研究科交流研究発表会 伊藤嘉余子(社会福祉学分野)	17名
2025年11月20日	第4回現代システム科学研究科交流研究発表会 樋口亜瑞佐(臨床心理学分野)	22名
2025年12月18日	第5回現代システム科学研究科交流研究発表会 坂東希(人間科学分野)	29名
2026年1月22日	第6回現代システム科学研究科交流研究発表会 住田守道(環境共生科学分野)	14名
<p>3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)~について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
学域教務委員会	毎月1回の定例の委員会の中で,学域独自のFDCやPBLについての現状や課題を共有し,その都度必要事項について協議した。	10名
研究科教学アセスメント実施委員会	第1回(6月24日)アセスメントリストの訂正について 第2回(10月27日)年次点検評価報告、自己点検について	7名
学域FD会議	第1回(6月19日)アセスメントのリストの訂正について 第2回(9月18日)アセスメントシートについて 第3回(10月16日)、第4回(10月29日)年次点検評価報告、自己点検について	13名

未来デザイン支援WG	2か月に1回程度のWGの中で、学生の進捗状況報告や課題の共有を行い、その都度必要事項について協議した。また、新カリキュラムの検討やFDC学生のGPA検証を行った。 (第1回(4月17日)、第2回(6月19日)、第3回(7月17日)、第4回(9月18日)、第5回(11月20日)、第6回(1月22日))	23名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・後期開講の学域共通科目「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」の4科目では、授業の最終回(第15回)において、各科目の担当者が対談形式で講義を行うことで、各学類や各教員の専門性のみにとらわれず、科目間のつながりやカリキュラム全体について意識するように促した。 ・大学院博士前期課程「現代システム科学特別演習1」「現代システム科学特別演習2」において、他の教員が指導する大学院生のポスター発表を聞き、異なる専門分野の視点からコメントを行うことにより、自らの研究指導や講義を改善するための機会を提供した。 ・本研究科に在籍中の大学院生に対して「大学院授業内容に関するアンケート」を実施し、その回答を第10回研究科教務委員会(2/26開催)において検討した上で当該分野・当該科目担当教員らへのフィードバックを行なうなど、大学院授業改善のための参考とした。(アンケート実施期間:2025年12月9日~2026年2月20日。) 		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください) <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (学域 94,研究科 86) 人 ・所属内の専任教員の人数 (学域 94,研究科 86) 人 		
6. その他、追記事項		

文学部・文学研究科

1. 各部署のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください) 文学部内にFD委員会(教員3名、うち1名が委員長)を設置。 2025年度FD研修会を、前期・後期、計2回開催した。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
2025年7月25日	第1回文学研究科FD研修会『文学研究科の大学院生の出口戦略』 ①「大学院修了者の状況と出口戦略について」 (北村昌史先生/文学研究科) ②フロア全体の質疑応答	57
2025年12月19日	第2回文学研究科FD研修会『ダイバーシティー推進コーディネーターを知りたい』 ①「ダイバーシティー推進コーディネーターってなんだろう？」	50

	(杉本和子さん／文学研究科ダイバーシティ推進コーディネーター) ② フロア全体の質疑応答	
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」「第2回…」と記載)	委員の人数
FD委員会	第1回(5月14日)「今年度の取り組みについて／大学教育授業実習制度について」	3
FD委員会	第2回(10月17日)「第2回FD研修会について／来年度の大学教育授業実習制度について」	3
FD委員会	第3回(2月17日)「大学教育授業実習制度の修了者について／本年度のFD委員会総括」	3
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
2025年度大学教育授業実習制度に1名の受講者があり、3回の授業実習と事前・事後の学習指導を行い、修了した。		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (57) 人		
・所属内の専任教員の人数 (61) 人		
6. その他、追記事項		
なし		

法学部・法学研究科(法学政治学専攻)および同研究科法曹養成専攻

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)
<p>【法学部・法学研究科】</p> <p>教育改革委員が法学部・法学研究科(法曹養成専攻を除く)のFDを担当し、教育の内部質保証委員会、教務委員会、研究教育体制検討委員会でMicrosoft Teamsを活用しながら必要に応じてFDを取り上げ検討している。年に数回、学部および研究科の全員が参加する教授会およびFD集会において、全体での情報共有と議論を行っている。また、部局の全教員・職員をメンバーとするMicrosoft TeamsにFD専用チャンネルを設置しており、常時FDに関する通知および議論を行っている。学生との関係では、法学会による新入生歓迎会や裁判所傍聴、大阪税関見学、学術講演企画、法学カフェなどの交流行事を開催している。</p> <p>【法曹養成専攻(ロースクール)】</p> <p>法曹養成専攻FD委員(専任教員2名・実務家教員1名)を中心に、前・後期各1回の定例FD集会(兼任教員・非常勤講師も参加可能)を専攻会議開催日に行い、各学期の授業アンケート結果及び定期試験成績を踏まえた議論に加え、授業改善方法についての報告・議論を行う。クラス担任面談は毎年5月頃に全員に対して行い、必要な情報を共有する。学外委員との教育課程連携協議会を年2回開催する。アカデミックアドバイザー(本専攻出身若手弁護士に就任を依頼)との意見交換会を年2回行う。</p>

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
【法学部・法学研究科】		
なし	なし	
【法曹養成専攻】		
なし	なし	
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数
【法学部・法学研究科】		
FD 関係ディスカッション（Microsoft Teams チャンネル）	常時開設（授業方法の情報交換その他 FD 事項の自由な議論）	32 名
FD 集会	第1回（2025年10月7日） ①2024年度後期 GPC データおよび2024年度後期授業アンケート結果の確認・意見交換 ②卒業生・修了者数、ていらいみすデータなどの各種データの確認・意見交換 ③学部科目の成績評価に関する意見交換	31 名
	第2回（2026年2月4日） ①2025年度前期 GPC データおよび2025年度前期授業アンケート結果の確認・意見交換 ②成績不振者面談実施数などの各種データの確認・共有および意見交換 ③合理的配慮者に関する意見交換	31 名
	第3回（2026年2月18日：教授会において開催） ①法学部および大学院法学政治学専攻における2025年度春入学者のデータに関する確認・共有 ②学生受け入れにかかる点検	31 名
教育の内部質保証委員会	常時開設（FD はじめ教育の内部質保証に関する案件が生じた場合の自由な議論）	7 名
【法曹養成専攻】		
FD 集会	第1回（2025年5月13日） ①2024年度後期成績分布および2024年度後期授業アン	25 名

	<p>ケートへのコメントの確認および意見交換</p> <p>②次回 FD 集会のテーマに関する意見交換</p> <p>第 2 回 (2025 年 10 月 14 日)</p> <p>①2025 年度前期成績分布および 2025 年度前期授業アンケートへのコメントの確認および意見交換</p> <p>②クラス面談のあり方に関する意見交換</p> <p>③CBT 導入後の対応に関する意見交換</p>	25 名
教育課程連携協議会	<p>第 1 回 (2025 年 10 月 7 日)</p> <p>①司法試験 CBT 化の進捗状況に関する意見交換</p> <p>②既修コースを中心とした入学者選抜試験の在り方に関する意見交換</p> <p>第 2 回 (2026 年 3 月 4 日)</p> <p>①令和 7 年司法試験結果を踏まえて</p> <p>②司法試験 CBT 化への対応状況</p> <p>③修了後の活動状況の把握について</p>	<p>5 名 (うち学外委員 3 名)</p> <p>5 名 (うち学外委員 3 名)</p>
拡大自己評価委員会	<p>第 1 回 (2025 年 6 月 20 日)</p> <p>①教育活動定例分析の対象および点検・検証活動に関する意見交換</p> <p>②司法試験合格率および入学者選抜試験に関する点検・意見交換</p> <p>第 2 回 (2026 年 2 月 19 日)</p> <p>①共通到達度確認試験の確認・分析 (刑法) および意見交換</p> <p>②留年率および標準修業年限内修了率の確認</p> <p>③認証評価結果 (案) (法律基本科目の在り方、成績評価の在り方) に関する検証・意見交換</p>	<p>7 名</p> <p>9 名</p>
AA (アカデミック・アドバイザー) との意見交換会	<p>第 1 回 (2025 年 7 月 29 日)</p> <p>①前期の実施状況をふまえた意見交換</p> <p>②今後の体制についての検討</p> <p>第 2 回 (2026 年 3 月 3 日)</p> <p>①2025 年度後期の活動の振り返り</p>	<p>実定法科目担当者を中心とする法曹養成専攻教員及び AA</p> <p>18 名</p> <p>16 名</p>

②2026 年度前期の活動への対応

4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組

【法学部・法学研究科】

- ・大阪公立大学法学会と連携して新入生歓迎会（4 月）、法学カフェ（7 月、12 月）、大阪地方裁判所見学（6 月、11 月）、学術講演企画（5 月、10 月）、大阪税関見学（6 月、11 月）、学生論文コンクール（2-3 月）の行事を継続し、学部生・大学院生との交流懇談の機会を確保した。
- ・相互授業見学（学部）を実施した（6-7 月、12 月）。
- ・演習担当教員・教務委員等を通して、留学生や成績不振学生を対象にした個別の学習相談を行った。
- ・定例教授会（2025 年 9 月 30 日）において、入試推進本部会議資料に基づき、2024 年度入学者追跡調査報告を実施した。

【法曹養成専攻】

- ・クラス担任面談の実施と情報共有（5 月）。
- ・前期教務関係アンケートの実施（カリキュラム全体に対する学生からの意見収集、7 月実施）。
- ・後期教務関係アンケートの実施（カリキュラム全体に対する学生からの意見収集、12-1 月実施）。

5. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）

【法学部・法学研究科】

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数（ 32 ）人
- ・所属内の専任教員の人数（ 31（2025 年 9 月まで 32 人））人

【法曹養成専攻】

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数（ 10 ）人※法科大学院専任教員の人数
- ・所属内の専任教員の人数（ 10 ）人※法科大学院専任教員の人数

6. その他、追記事項

【法学部・法学研究科】

- ・「部局の FD 活動取り組みについて」の策定および提出（6 月）。
- ・「教学アセスメントリストにおける年次点検評価報告」の策定および提出（10 月）。

【法曹養成専攻】

- ・本年（令和 7 年）度、大阪公立大学としては初めての独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による法科大学院認証評価を受審した。2025 年 11 月 17 日に同機構による訪問調査を受け、2026 年 1 月 30 日に「法科大学院認証評価結果（案）」が送付された。第 2 回拡大自己評価委員会（2026 年 2 月 19 日）において、同（案）に関する検証および意見交換を行った。

経済学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

教育改革委員会が主催している。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2025年10月8日	今後のFD委員会についての意見徴収	34
2026年2月7日	アンケート、試験採点ソフトの実演	34
2026年3月6日	ムードルの活用方法について	34
2026年3月20日	教育データの分析について	34
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
2025年12月10日	今年度の教育改革委員会の振り返り	4人
2026年1月14日	来年度の教育改革委員会について	4人
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
特になし		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数（ 34 ）人		
・所属内の専任教員の人数（ 39 ）人		
6. その他、追記事項		
特になし		

商学部・経営学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
・教育の内部質保証委員会（研究科長、副研究科長、研究審議会第5号構成員）		
・同委員会で年度毎にFD研修について実施内容検討		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2026年2月18日	経営学研究科の中川慧教授から、「生成AIの仕組みから見る教育活用に関する課題」をテーマにご講義いただいた。生成AIの仕組みや商学部・経営学研究科の教育に与える影響などについて説明および議論が行われた。部局の	39名

	教育における位置づけと合わせて、今後も教育の質内部保証委員会を中心として継続的に検討することを確認した。	
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
教育の内部質保証委員会	2025年度前期成績分布状況(学部・大学院博士前期課程・大学院博士後期課程)、2025年度前期「授業振り返り(授業評価アンケート含む)の実施結果概要、その他について。2026年1月30日開催。	3名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
<p>・成績不振の学生に対する学習相談 一定の基準にもとづいて成績不良者(留年・仮進級生)をリストアップし、専門ゼミナールに所属している学生についてはゼミ教員が、専門ゼミナールに所属していない学生については、教務委員等が直接面接・連絡し、学生の状況を把握するとともに、学力向上の方法について共に考える機会を作った。</p> <p>・経営学会主催の大学院生向け研究会の実施 日時：2025年7月28日、15:00-16:30(1号館120教室) 参加者：約30人(大学院生・教員) 大学院生向け研究会は、経営学研究科の大学院生(主に新入生)向けに開催しており、今年度は中本龍一先生が報告された。研究上の課題や解決策など広く研究について紹介され、大学院生や教員からの質問に答えて懇談した。大学院生にとっては、研究について学ぶ良い機会になった。</p> <p>・『CORE・学生論文特別号2026』優秀論文の表彰 日時：2026年3月吉日 『CORE・学生論文特別号2025』に掲載された論文から選考を行い、複数の優秀論文を決定した。受賞者は商学部ホームページにて発表した。商学部の専門ゼミナールでの学生の勉強意欲を高めるための試みであった。</p> <p>・2025年度商経人権研修会 日時：2026年1月14日(水)13:00~13:50(オンライン開催) テーマ：大阪公立大学「EJ ART」人材育成プログラムについて 講演者：吉田隆之(都市経営研究科 教授) 参加者：商学部・経済学部から64人 大阪公立大学では、2023年度から文化庁「大学における文化芸術推進事業」に採択され、「Equity(公正)&Justice(正義)」を軸としたソーシャルアートコーディネーターの人材育成事業を実施している。本事業の概要とこれまでの成果についてご報告いただいた。</p>		

・優秀 GPA 学生の表彰 3月24日の学位授与式で表彰を行った。
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください） ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 40 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 40 ）人
6. その他、追記事項 特になし。

都市経営研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 2026年度のFD案を作成の上、教授会にて審議し、下記の内容で実施した。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
10月8日（水）	社会人大学院の現状と今後の展望	13
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数
委員会の設定なし		
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組 なし		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください） ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 13 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 15 ）人		
6. その他、追記事項		

情報学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 情報学研究科は基幹情報学、学際情報学の2専攻からなり、各専攻でFD検討委員会を設置。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
4月4日	ドイツ留学説明会	約80名

3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
基幹情報学 FD 検討 会議 (全 12 回)	毎月最終週火曜日開催の専攻会議と同時に開催、カリキュラム等を検討	29 人
学際情報学専攻 FD 会議	学際情報学専攻の授業実施内容の検討・3月5日	25 人
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度実施された自己点検評価やその根拠資料となる教学アセスメントを共有した。 ・成績分布の偏りやクラス間の差を確認するなどの方法で成績評価の点検を行った結果、大きな問題がないことを確認した。全教員に GPC データを共有し自身の成績評価について今後の参考とするとともに、評価基準についての意識改善を促した。 ・研究科連絡会議において大阪公立大学の全学や各部局で実施される FD セミナーへの参加を呼びかけた。 ・Microsoft Azure Dev Tools for Teaching を利用し、所属学生が授業の自習・研究に利用可能なプログラミング開発環境の提供を行った。 ・年度当初の各学年オリエンテーションにおいて、取得単位調査を行うことにより、卒業、進級要件の再確認を行った。また、10月の後期オリエンテーション時にも同様の取り組みを実施した。 ・4月と10月に学部学生の研究室訪問期間を設定し、最新の研究成果を紹介するとともに、大学院生との交流を通じて大学院での研究生活に関する情報提供等を実施した。 ・大学院学生に対して、8月29日(基幹情報学専攻)と1月27日(学際情報学専攻)にポスター発表形式の中間報告会を実施した。中間報告として研究内容をまとめることにより、各自の研究進捗を促すと同時に他研究室との交流を行った。 ・高等教育研究開発センターが発行し、今年度は情報学研究科が執筆を担当した「大学教育だより」の情報を共有した。 		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)		
<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (54) 人 ・所属内の専任教員の人数 (54) 人 		
6. その他、追記事項		

理学部・研究科

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)</p> <p>理学部 FD 委員会は各専攻から選出の教員6名で構成され、うち1名は委員長で教育改革委員会委員を兼ねている。理学部 FD 委員会は、理学研究科・理学部内部質保証委員会と協働しつつ、教育の内部質保証に関する自己点検を行った。</p>

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2025年4月2日	数学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 43名
2025年4月2日	物理学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 80名
2025年4月2日	化学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 80名
2025年4月2日	生物学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 40名
2025年4月2日	生物化学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 46名
2025年4月2日	地球学科 新入生オリエンテーション	学生を含め 46名
2025年4月10日	物理学専攻キャンパス統合記念懇親会	50名
2025年4月16日	春の物性セミナー（物理学専攻）	40名
2025年6月24日	地球学科 3年生 研究室配属ガイダンス	学生を含め 40名
2025年6月26日	生物化学専攻 3年生対象研究室紹介	学生を含め 40名
2025年7月4日	生物化学専攻 3年生対象研究室紹介	学生を含め 42名
2025年7月10日, 10月10日, 10月17日, 10月21日	理学国際教育研究センター 研究セミナー	学生を含め 100名
2025年8月25,27日	夏の物性セミナー(物理学専攻)	学生を含め 40名
2025年9月4日, 9月11日, 10月31日, 11月18日, 12月11日, 12月17日	物理学専攻 談話会	平均約 30名
2025年9月25日	物理学科三回生向け研究室紹介	学生を含め 80名
2025年10月1-20日	生物学科 3年生 研究室配属説明・研究室訪問	学生を含め 40名
2025年11月7-9日	南部・アインシュタインセミナー2025 (物理学専攻)	学生を含め 51名
2025年12月11日	理学国際教育研究センター(IREC)シンポジウム	学生を含め 120名
2026年1月9・23日	化学科 研究室配属説明・研究室訪問	学生を含め 80名
2026年3月7日	2027年度入学理学研究科地球学専攻の説明会	学生を含め 30名
2026年2月21日	化学専攻 大学院進学説明会（学外者向け）	学生を含め 17名
2026年3月5日	「新たな大学院教育の展開のための FD 研修会」－ 経済学と数学 －（数学研究所と理 FD 委員会共催）	学生を含め 60名
2026年3月7日	地球学専攻 大学院進学説明会	学生を含め 30名
2026年3月8日	生物専攻 大学院進学説明会（学外者向け）	学生を含め 10名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数

数学FDミーティング	第1回(2025年8月21日)成績分布の点検 第1回(2026年2月28日)成績分布の点検	各回 48
物理学教室 教室会議	「専攻長会議報告を受けて」4/24, 5/29, 6/26, 7/31, 8/28, 9/25, 10/27, 12/1, 12/25, 1/26, 3/2, 3/30 「物理教室の広報について」4/24, 5/29, 10/27 「オープンキャンパスについて」4/24 「物理教室の将来計画、人事について」5/15, 5/19, 5/29, 6/26, 8/28, 10/27 「教務報告を受けて」5/29, 6/26 「研究室配属について」6/26, 7/31 「公大授業について」6/26, 12/1 「入試の女子枠について」7/31, 8/28 「卒業論文、卒研発表会について」7/31 「カリキュラムについて」8/28 「飛び級制度について」10/27, 12/25 「博士課程修了要件について」12/1	各回 45名
物理学教室運営委員会	「物理教室の広報について」4/22, 5/27, 10/7, 10/21 「卒業論文、卒研発表会について」4/22 「カリキュラムについて」4/22, 7/8, 7/22, 1/6 「大学院推薦について」5/13, 6/10 「大学院二次募集について」5/27, 8/26, 10/7, 10/21, 11/4 「物理教室の将来計画、人事について」6/10, 6/24 「入試の女子枠について」7/22, 8/26 「国際化について」8/5 「飛び級制度について」11/4, 12/2 「教職科目について」11/18 「大学院前期博士課程の卒業単位数について」11/18 「交換留学に伴うオンライン履修について」11/18 「秋入学について」12/2	各回 24名
化学専攻会議	第1回(5/30) 化学科安全マニュアルについて 17 第2回(6/27) 後期博士課程の早期修了認定について 14 学位論文予備審査について 第3回(8/29) 化学将来構想委員会の設置について 16 第4回(9/24) 大学院入試の分析について 18 危険物倉庫の安全対策について 第5回(10/24) 飛び級審査について 16 第6回(11/28) 研究室配属方法について 13 第7回(12/26) 外国人教員の採用について 17	
生物学専攻会議	第1回(4/18) 研究室移動の基準について 29 第2回(5/19) 博士学位論文予備審査の進め方について 29	

	第4回(7/28) 夏季休業中学舎使用申請方法について 第6回(9/30) サイエンスフロンティア (生物学) C,D,E,Fの新設について, 卒研, 修論, 博論発表会日程について 第8回(11/17) 委員業務に要する時間の調査について 第9回(12/22) 修士学位審査・評価基準について 第10回(1/26) 研究業績優秀者の選定方法について 第11回(2/20) 2026年度の各種委員について	30 30 30 30 30 30 30
地球学専攻会議	第1回(4/18) 学生メーリングリストについて 第2回(5/16) 学生のコンプラ・倫理教育について 研究室配属のルールの見直し 第3回(6/20) ディプロマ・カリキュラムポリシーについて 第4回(7/7) 卒業論文の提出様式について 第5回(8/22) 専攻が使用する部屋の整備について 第6回(9/19) カリキュラム・時間割変更について 第7回(10/15) 教職理科実験科目について 第8回(11/19) 進級条件の見直し・変更について 第9回(12/17) 学位論文の審査・評価基準について 第10回(1/21) 卒論・修論発表会について 第11回(2/12) 森ノ宮Cでの教育用展示について	14 15 16 15 16 16 14 16 16 16 15
生物化学専攻・生物化学科教室会議	2025年4月17日、2025年5月15日、2025年6月19日、2025年7月17日、2025年8月21日、2025年9月18日、2025年10月16日、2025年11月20日、2025年12月18日、2026年1月15日、2026年2月19日 2026年度に向けた新入生保護者懇談会の準備、学部3年生の大学院進学について、後期開講科目のシラバスの確認、再履修者対象の授業について、学生のキャンパス内施設の滞在時間について、2026年度開講の集中講義について、修士・博士新入生オリエンテーションについて、学生の就学状況（学生異動・成績を含む）などについての情報の把握と共有、学生の修学指導についての議論を行った。	16名

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組

【物理学専攻】(1) 実験WG(担当教員による会議)を講義期間中に断続的に開催。(2) 学生アドバイザーによる学生との個別面談(年1, 2回)。(3) 年次報告書を作成し, 教育活動・成果について共有。

【化学専攻】(1) 4月に化学専攻安全対策と夜間休日学舎使用に関するルール徹底を図った。(2) 化学実験(基礎・専門を含む)の提供内容の再構築をワーキンググループで行なった。(3) 教務委員を中心に時間割・提供時期の変更および科目新設についての話し合いを行なった。(4) 学生アドバイザー・教務委員を中心に留年生の履修に関するサポートを行なった。

<p>【地球学専攻】(1) 夜間休日学舎使用に関するルール徹底を図った。(2) 学生アドバイザー・教務委員を中心に留年生の履修に関するサポートを行なった。</p> <p>【生物学専攻】(1) 夜間休日学舎使用に関するルール徹底を図った。(2) 学生調査アンケートについて、各研究室でゼミの時間内での実施を学科内会議でお願いするなど、回答率向上を図った。</p> <p>【生物化学専攻】(1) 生物化学専攻全教員でFD活動の促進を図った。(2) 授業ふりかえりの学生の回答率を上げるための周知方法の検討を行った。(3) また、回答があったものについては、その回答を基に授業の設計と実施の見直しなどの検討を行った。</p>
<p>5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）</p> <p>・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 175 ）人</p> <p>・所属内の専任教員の人数 （ 182 ）人 2025年9月1日現在</p>
<p>6. その他、追記事項</p> <p>なし</p>

工学部・研究科

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>工学研究科の全教員を対象としたFD集会は、公立大学工学教務委員会で企画している。その他教育改善に係わる情報も工学教務委員会で共有している。また、各学科・分野ごとにFD会議を開催することで、各科目や各教育課程に関する改善や情報共有を個別に行っている。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2025.08.25	工学FDセミナー「研究室等におけるハラスメント事例とその対策—工学分野や理系分野を中心に」	222人
<p>3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
第1回工学FD報告会	(2026年3月12日開催予定)	22人
航空宇宙工学FD会議	月1回の教室会議において、学生の履修状況や学習成果についての点検・評価と、教育の質の改善・向上に関する検討を実施（12回）。	13人
2025年度第1回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度海洋システム特殊講義の日程確認および内容に関する審議（4月22日）	9人
2025年度第2回海洋システム工学科/分野FD会議	前期学外実習（JMU工場見学@津，新来島サノヤス造船見学会@大阪造船所）の日程と内容確認、2025年度FD活動取組内容についての協議（5月27日）	11人

2025年度第3回海洋システム工学科/分野FD会議	2026年度以降の初年次ゼミナールの在り方についての協議 (6月24日)	10人
2025年度第4回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度卒業研究ループブック評価方法についての協議、 2025年度度海洋システム総合演習の内容及びスケジュール について協議(7月29日)	11人
2025年度第5回海洋システム工学科/分野FD会議	2026年度入学生からの大学院特別演習・特別研究の変更 についての協議、総合型選抜入学生の現状についての情報共有 (9月30日)	11人
2025年度第6回海洋システム工学科/分野FD会議	博士前期課程英語コース提供科目について、2026年度前期 森ノ宮開講科目の実施要領について協議(10月28日)	9人
2025年度第7回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度 初年次ゼミナールおよび「エンジニアのためのキ ャリアデザイン」担当者選出、2025年度前期科目GPCの 共有と協議(11月25日)	11人
2025年度第8回海洋システム工学科/分野FD会議	外部評価委員会の開催および内容について協議、初年次ゼミ ナールの内容について協議(12月23日)	10人
2025年度第9回海洋システム工学科/分野FD会議	DP, CPの確認、「工学研究の最先端」担当者選出 (1月27日)	9人
2025年度第10回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度外部評価委員会の開催および内容について協議 (2月24日実施)	11人
2025年度海洋システム工学科/分野FD外部評価委員会	分野FD外部評価委員会を開催。以下の内容を報告し、外 部評価委員より、評価・意見を頂く。 ・2025年度活動報告(入試・教育・研究) ・入学者分析、分野将来構想、研究発信状況 ・その他大学の状況(3月17日)	20人
2025年度第11回海洋システム工学科/分野FD会議	年度のFD活動の振り返り(3月24日)	11人
教育点検・生活指導委員会	学生の履修状況や授業の問題点等を教員間で情報共有し、分 野内アドバイザーへ対応が必要な学生に対する対処を依頼し た(4/24, 5/29, 6/26, 7/31, 9/4, 9/25, 10/30, 11/27, 1/8, 1/29).	30人/回
第1回機械工学科FD集会	弁理士を招き、研究活動に関わる成果の公表についての扱い について勉強会を実施した、(5/15)	30人
第2回機械工学科FD集会	工学部再編を視野に置き、新しいカリキュラムや研究組織の 構成について議論した、(7/10)	30人

<p>機械工学・科目間調整 WG</p>	<p>・<u>機械基礎実験</u>： 今年度の科目運営(4/21, 9人), 発表会の開催方法, 成績評価, 欠席学生の対応(6/9, 10人), 発表会講評, 成績評価, 次年度に向けて(8/4, 11人)などについて協議した他, 授業実施期間を通じて学生の出欠状況を情報共有した.</p> <p>・<u>機械応用実験</u>： 本年度の履修者の確認, 実施内容, 成績評価法について協議(9/20, 6人), 実験装置の動作の確認や担当 TA への指導(10/2, 5名)を実施した.</p> <p>・<u>コース演習</u>： 2025年度の実施状況を分野内会議で共有するとともに, 次年度に向け授業効率化のための実施方法の改善案について協議を行った(1/8, 36人)</p> <p>・<u>機械工作実習</u>： 昨年度後期実習の実施状況およびヒヤリハット情報の共有と問題点の検討, 今年度前期実習実施予定の説明(3/7, 17名). 今年度後期実習の実施予定および問題の改善に向けての意見交換, 今年度前期実習の実施状況及びヒヤリハット情報の共有と問題点の検討(20名, 8/25).</p> <p>・<u>機械製作実習</u>： 今年度の実施内容の振り返りと改善点を協議, 成績評価方法の確認(1/21, 6名)</p> <p>・<u>機械製図演習</u>： 担当者間で授業実施を踏まえての問題点を整理するとともに授業改善に向けた協議をし, 次年度の授業に活かすことにした(メール審議・2/9~2/17, 15人)</p>	<p>36人</p>
<p>公大建築会議</p>	<p>第5回「情報技術と建築」</p>	<p>13人+学生</p>
<p>公大建築会議</p>	<p>第6回「現代の建築構造の研究者とは」</p>	<p>13人+学生</p>
<p>都市学科会議</p>	<p>学科会議(毎月開催)</p>	<p>20人</p>
<p>都市学科 FD 集会</p>	<p>学科 FD 集会を2回開催した. 第1回(11/4)「総合型選抜入学者の成績の推移について」, 第2回(3/3)「大学入試における女子枠について」</p>	<p>20人</p>
<p>電子物理系専攻教授会</p>	<p>第1回(4月24日) 学生異動, 既修得単位認定, 大学院入試(飛び級制度), 研究指導計画書の作成, B2コース配属, FD活動報告に対する外部委員評価について 第2回(5月29日) 学部推薦入試, 大学院入試実施体制, 基礎教育科目(数学)の配当年次について 第3回(6月26日) 編入学試験, 大学院入試口述試験について</p>	<p>16人</p>

	<p>第4回(7月31日) 転学科の実施内容, 2026年度以降のカリキュラム変更, 大学院特別演習・特別研究の変更案, 学生調査担当者について</p> <p>第5回(9月25日) 電子物理工学概論 1 単位取得状況確認, B2 コース配属について</p> <p>第6回(10月30日) 電物専門科目の1クラス化および選択科目化</p> <p>第7回(11月27日) 学生異動, 2026年度以降のカリキュラム変更について</p> <p>第8回(12月25日) 2026年度講義担当, 特別選抜・編入学試験について</p> <p>第9回(1月29日) FD活動報告, 研究指導報告書, 入試制度について</p> <p>第10回(2月26日), 編入学単位認定, 要覧確認, ディプロマサプリメント, 時間割確認, 次年度前期遠隔授業, M2 研究業績優秀賞・電気クラブ賞推薦, B4 学業成績優秀賞推薦</p> <p>第11回(3月26日) 教職課程自己点検の予告, 「ていら・みす」学生アドバイザー登録, ディプロマサプリメント電物の重み設定</p>	
電子物理系専攻 全体会議	上述した専攻教授会と同じ日程で開催し、同会議の内容を構成員間で共有した(計11回)。	42人
電子物理工学 (電子物性コース) 担当者会議	<p>上述した専攻教授会の内容に加え、</p> <p>第1回(4月24日) 卒論・修論発表, B4 学生配属, 編入学試験, 集中講義</p> <p>第2回(5月29日) 研究指導計画書, 飛び級, 編入学試験, 新入生保護者懇談会, 高校研究指導</p> <p>第3回(6月26日) 大学院入試, 卒論(B4)中間発表会および卒論・修論発表会の日程確認</p> <p>第4回(7月31日) 大学院入試, B2 コース配属</p> <p>第5回(9月25日) 9月修了, 卒論(B4)中間発表会の日程確認</p> <p>第6回(10月30日) 修論の主査担当, 次年度集中講義, B4 中間発表会, 文科省半導体人材育成, 研究室説明会(B3対象)</p> <p>第7回(11月27日) 次年度集中講義, D3 公聴会, 研究室説明会, 講義の廃止, 再編後の教職課程</p> <p>第8回(12月25日) 卒論・修論, D3 公聴会, 大学院入試(2次), 2026年度講義担当</p> <p>第9回(1月29日) 卒論・修論発表, 進路相談, R8 年度研</p>	10人

	<p>研究室配属</p> <p>* 毎回：進路状況 (進学・就職) の確認, および成績不良者への対応に関する報告・意見集約</p>	
<p>電子物理工学 (電子物性コース) 教室会議</p>	<p>上述した専攻教授会・講担会議と同じ日程で開催し、上記2会議の内容を構成員間で共有した (計 11 回)。</p>	27 人
<p>電子物理工学実験 (電子物性コース) 会議</p>	<p>第 1 回 (4 月 7 日) 新任教員への指導方針の確認および指導内容の引継ぎ (3 名)</p> <p>第 2 回 (8 月 19 日) 採点基準の見直しについての検討会議 1 (9 名)</p> <p>第 3 回 (1 月 29 日) 採点基準の見直しについての検討会議 2 (10 名)</p>	参加人数は左記の通り
<p>電子物理工学 (電子材料コース) 教授会</p>	<p>上述した専攻教授会に加え、</p> <p>5 月度 (5 月 29 日) 工学再編, 退職教員後任人事</p> <p>6 月度 (6 月 26 日) 材料コース院出願状況, 会社見学計画 (住友電気工業株式会社大阪製作所), 編入生担当チューター教員</p> <p>7 月度臨時 (7 月 4 日) D 進学希望学生の特別事情対応の検討, 会社見学報告, 学籍移動予定報告 (休学 1 名)</p> <p>7 月度 (8 月 7 日) 院試, 学籍移動 (休学 2 名, 復学 1 名), コース分け希望結果分析</p> <p>10 月度臨時 (10 月 9 日) 市大必修科目 (機械提供の工業数学 II・III) の履修状況確認と 2026 年度以降の対応法, 編入学の物性/材料比率案の承認, 博士前期・後期入学手続者数の確認</p> <p>10 月度 (10 月 30 日) 2026 年度コース体制案の策定</p> <p>12 月度臨時 (12 月 15 日) 進級見込・卒業見込, 卒研配属人数の検討</p> <p>12 月度 (12 月 25 日) 卒研配属人数の再検討, 卒論・修論日程の確認</p> <p>1 月度 (1 月 28 日) 卒業研究配属案 (含新任+兼担) 再々検討, 修論主査・副査・プログラム案事前検討</p> <p>2 月度 (2 月 26 日) 学籍異動, TA 選出, 新 B4 用卒研ガイダンスプログラム検討</p> <p>3 月度 (3 月 26 日) 学位授与式昼食会会計, 新 B4 用卒研ガイダンスプログラム確定</p> <p>※各回において随時: 教員数大幅減に伴う次年度以降に向けた授業担当者・実験担当者・卒研受入教員の検討と人員確保実施 (新規非常勤雇用・量子放射線教員の兼担・類似科目による読替など)</p>	6 人

<p>電子物理工学 (電子材料コース) 教員会議</p>	<p>上述した専攻教授会の内容を電子物理工学教員会議にて共有するとともに、電子材料コース固有の案件について、以下のとおり、電子材料コース教員会議を実施した。</p> <p>4 月度 (4 月 24 日) 学籍移動の確認, 会社見学計画の確認, 飛び級候補者の確認, 修論・卒研発表日程案の確認</p> <p>5 月度 (5 月 29 日) 後期 TA・SA の依頼, 2026 年度以降のコース体制案の確認</p> <p>6 月度臨時 (6 月 12 日) 後期 TA・SA の確定, 院試出願状況の確認</p> <p>6 月度 (6 月 24 日) 院試出願状況の再確認, 会社見学準備進捗の報告, 編入生のチューター担当教員の決定, 「技術と環境」担当者の検討・決定, ていらみず学生アドバイザー登録状況の確認</p> <p>7 月度 (8 月 7 日) 学籍移動の確認 (休学 2, 復学 1), 2026 年度着任予定人事状況報告, コース分け希望結果の報告・分析・対策検討, 「技術と環境」順番検討, A5 棟改修に伴う講義室変更 (2 科目) の確認</p> <p>8 月度 (8 月 25 日) 博士前期・後期入試の状況報告と分析, 「技術と環境」順番確定, 学生実験不合格者の報告・分析・対策検討, 後期ガイダンス日程・内容の策定</p> <p>10 月度 (10 月 30 日) 2026 年度着任予定人事状況, 修論・卒研発表日程の確定, 2026 年度学生実験テーマ・担当者調整の報告</p> <p>12 月度 (12 月 25 日) 進級見込の確認, 卒研配属数の検討, 2026 年度着任予定人事状況の報告, 院:特別演習(電子材料 1) の担当教員の検討・確定, 修論・卒研日程の確認</p> <p>1 月度 (1 月 28 日) 卒業研究配属案 (含新任+兼任) 検討, 修論主査・副査・プログラム案検討</p> <p>2 月度 (2 月 26 日) 学籍異動, TA 選出</p> <p>3 月度 (3 月 26 日) 学位授与式昼食会次年度実施方法, 新 B4 卒研ガイダンスプログラム報告</p> <p>※各回において随時: 進路状況 (進学・就職) の確認, 成績不良者への対応に関する報告・意見集約・必要に応じて対策実施</p>	<p>15 人</p>
<p>電子物理工学実験 (電子材料コース) 担当者会議</p>	<p>2025 年 6月12日 (木) 電子物理工学実験 1 (前期) 前半の学生の取組状況把握 (出席・レポート提出状況確認), 後半の指導に活用, 以降情報共有は全てメール連絡</p> <p>2025 年 8月18日 (月) 電子物理工学実験 1 (前期) の成績判定会議</p> <p>2025 年 10月28日 (火) 2025 年後期および 2026 年度における</p>	<p>前期 8 人 後期 7 人</p>

	<p>学生実験日程, ポスター発表会 (1/15 14:00@B7 1F ホール) の計画検討, 後期中で出席状況確認, 今年度中の購入必要物品リストアップ, 将来的な実験課題の見直し, 2026 年度シラバス内容確認, UNIPA への登録作業確認 (次年度担当者), 2026 年度実験手引書原稿回収と製本日程, 教員数大幅減の 2026 年度実験テーマ・担当者検討 = 1 つの実験課題に対して 1 人の教員が担当 (常勤 6 名, 非常勤 2 名体制)</p> <p>12月11日 (木) 電子物理工学実験 2 (後期) 前半の学生の取組状況把握 (出席・レポート提出状況確認), 後半の指導に活用, 以降情報共有は全てメール連絡</p> <p>2026 年 2月6日 (金) 電子物理工学実験 2 (後期) の成績判定会議, 会社訪問 (前期) ・ポスター発表 (後期) の評価, 来年度予算と TA 数 (4 名) 検討, 実験主担当者の交代時期の変更, 2026 年度に新テーマ, 4月着任教員担当</p>	
電気電子システム工学 科 分野教育改革会議	部局の教育委員会の情報共有し、分野の教育方針の審議などを行う(月例/8月休会、年 11 回開催)	5 人
電気電子システム工学 科 実験委員会	分野が担当する実験に関して方針、学生の受講状況などを共有する。(定例/年 3 回開催)	14 人
応用化学科 教育委員会	<p>学科全教員で担当する必修科目 (応用化学概論、応用化学総合演習) に関する実施内容検討</p> <p>第 1 回 (7 月 9 日) 応用化学概論の振り返りと次年度の実施計画、応用化学総合演習、応用化学実験の実施計画について</p> <p>第 2 回 (1 月 13 日) 応用化学総合演習の振り返りと応用化学概論の次年度の実施計画について</p>	11人/回
応用化学科 教室会議	<p>学科全教員で担当する必修科目の今年度の実施状況及び次年度の準備状況の情報共有と検討</p> <p>第 1 回 (7 月 28 日) 前期の履修状況の情報共有と学科共通必修科目 (応用化学概論) の実施状況について</p> <p>第 2 回 (12 月 23 日) 後期の履修状況の情報共有と学科共通必修科目 (応用化学総合演習) の実施状況について</p>	24人/回

<p>化学工学科・教室会議 と職員会議</p>	<p>4月28日：専門科目授業の進捗状況、在学生の履修指導、コンタクト教員制度による1年次生・2年次生の面談計画、4年次生の研究室配属後の状況、博士前期学生の就職状況、博士後期学生の進捗状況、履修登録に問題のある学生の抽出について</p> <p>5月26日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、入学時アンケートへの対応、コンタクト教員からの面談報告について</p> <p>6月23日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況と中間試験の成績不審者、実験科目のレポート提出状況、博士前期学生の就職状況、化学工学序論の研究室見学について、編入学試験の実施状況、コンタクト教員からの面談報告について</p> <p>7月28日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況と成績不審者および多回欠席者、実験科目のレポート提出状況、博士前期学生の就職状況</p> <p>8月20日：大学院入試の状況、卒業研究と大学院A群科目の評価、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者について</p> <p>9月29日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況、在学生の単位習得状況について、完成年度に向けたカリキュラムの見直しについて</p> <p>10月27日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、オープンラボ、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況、進級が危ぶまれる学生の面談結果、3年次編入生に対する学科教育と単位認定科目間のギャップを埋めるための対策、博士前期課程学生への大学院博士後期進学・就職についての説明会、コンタクト教員からの面談報告、編入学試験PRについて、完成年度に向けたカリキュラムの見直しについて</p> <p>11月25日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、オープンラボ実施報告、3年次編入生の単位認定とガイダンス、博士後期課程学生の博士論文の論文投稿状況、コンタクト教員からの面談報告、完成年度に向けたカリキュラムの見直しについて</p> <p>12月22日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、卒論・修論発表・大学院博士前期1年学生の間接発表、新入生・在校生オリエン</p>	<p>14人</p>
-----------------------------	---	------------

	<p>テーション、博士後期課程学生の論文投稿状況、完成年度に向けたカリキュラムの見直し</p> <p>1月26日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、必携PCの部局独自スペック、博士後期課程学生の博士論文提出・査読状況、博士後期課程学生の公聴会について、完成年度に向けたカリキュラムの見直し</p> <p>2月12日：卒業研究と大学院A群科目の評価、卒業研究発表賞とM1ポスター発表優秀賞の選定について</p> <p>2月24日：教務委員会／教育運営委員会報告、修士研究発表賞と化工研究業績賞の選定、化学工学序論・化学工学英語演習の実施方法、学生アドバイザーによる1年次生、2年次生の個別ガイダンス、進級できない3年次生のケア、3年次編入学生への履修指導について</p> <p>3月30日：教務委員会／教育運営委員会報告、新入生・在校生オリエンテーション、化学工学序論・化学工学英語演習の実施方法、在学生の単位習得状況、次年度授業分担について</p>	
<p>マテリアル工学・2025年度教室会議／担当者会議</p>	<p>第1回（担当者会議4月22日、教室会議4月23日） 飛び級候補者選定、大学院口述試験対象者選定、副指導教員制度の運用方針、研究発信ロードマップ年度計画、研究室における事故防止および安全管理の徹底などについて</p> <p>第2回（担当者会議5月27日、教室会議5月28日） 大学院他専攻科目の履修登録、FD活動の取り組み、大学院入試実施体制の確認、国際性向上の取組などについて</p> <p>第3回（担当者会議6月24日、教室会議6月25日） 前期試験実施計画、FDセミナー、オープンキャンパスなどについて</p> <p>第4回（担当者会議7月29日、教室会議7月30日） 成績 博士後期課程の人数、大学院入試準備などについて</p> <p>第5回（担当者会議9月22日、教室会議9月24日） 後期履修状況確認、教員退職に伴う大学院生配属研究室の調整、大学院修了予定者対応、研究発表会実施体制などについて</p> <p>第6回（担当者会議10月28日、教室会議10月29日） 後期授業運営状況確認、2026年度入試などについて</p> <p>第7回（担当者会議11月25日、教室会議11月26日） 学生の不正行為対応、工学再編などについて</p> <p>第8回（担当者会議12月23日、教室会議12月24日） 修士論文・卒業研究発表会、教免のカリキュラムなどについて</p>	

	<p>第 9 回（担当者会議 1 月 27 日、教室会議 1 月 28 日） 2027 年度以降の再編を見据えた体制検討、卒業研究配属方針、再編後の入試体制などについて</p> <p>第 1 0 回（担当者会議 2 月 24 日、教室会議 2 月 26 日） 2026 年度新入生カリキュラムオリエンテーションの実施について、高専学生のマテリアル工学科訪問について</p> <p>第 1 1 回（担当者会議 3 月 23 日、教室会議 3 月 25 日） 新学科カリキュラムについて、2026 年度オープンキャンパスについての検討、私費外国人留学生特別選抜制度について</p>	
化学バイオ工学科 FD 集会	化学バイオ工学科 FD 集会（3 月 23 日）にて、主に学生の問題行動の把握と組織的対応について議論した。	21 人
化学バイオ工学分野会議	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回分野会議（4 月 22 日）にて、学生の履修、就学状況について確認および討議した。 ・第 2 回分野会議（5 月 26 日）にて、学部・大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第 3 回分野会議（6 月 24 日）にて、学部・大学院入試、学生の動向について確認および討議した。 ・第 4 回分野会議（7 月 28 日）にて、学生の動向、学部・大学院入試、授業カリキュラムについて情報共有、確認および討議した。 ・第 5 回分野会議（8 月 25 日）にて、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第 6 回分野会議（9 月 22 日）にて、大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。 ・第 7 回分野会議（10 月 21 日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第 8 回分野会議（11 月 25 日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第 9 回分野会議（12 月 22 日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。 ・第 10 回分野会議（1 月 26 日）にて、学部カリキュラム、修士論文発表会、卒論発表会、学生の動向について確認および討議した。 ・第 11 回分野会議（3 月 2 日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラム、学生の動向について確認および討議した。 ・第 12 回分野会議（3 月 23 日）にて、大学入試、学生の動向について情報共有および討議した。 	21 人
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組		

(工学全体)

・2025年度に入学した学部生および大学院生を対象に入学時アンケートを実施し、本学で身につけたい能力や将来取得したい学位など幅広い項目で調査を行なった。結果は工学部内で共有した。

・2025年度に修了する博士前期課程大学院生を対象に修了時アンケートを実施。(2026年3月予定)

(航空宇宙工学科、航空宇宙工学分野)

・新入生オリエンテーション、学年ガイダンス

・授業評価アンケートの実施と授業改善の検討

・卒論発表優秀賞、および修論発表優秀賞、修論アイデア賞の選出

・「航空宇宙工学工作実習」(前期木曜3・4コマ)について、今年度実施した学科独自の実施状況を踏まえ、来年度に向けた内容の改善を検討

・学部入学制度と在籍学生の成績の分析

・ボーイングエクスターンシップへの参画

・「航空宇宙工学実験」(前期・後期水曜3・4コマ)の改善に向けた検討・機器の更新

インターンシップ報告会を通じ、エンジニアのキャリア教育を充実

(海洋システム工学科、海洋システム工学分野)

・「卒業研究」「海洋システム工学実験」で運用を開始したループリックの運用結果を評価し、見直すとともに継続して運用することを決めた。

・総合型選抜内容について議論した。

・前年度に引き続き、入学区分や学年ごとの成績データを解析し、学生動向や成績動向について調査した。

・前年度に引き続き外部評価試験結果(2013年度までStudentEQ等→2024年度以降PROG)と成績および教育プログラムとの関係を分析した。

・大学院 関西海事教育アライアンス運営委員会を2026年2月24日(開催予定)に開催し、2025年度開講科目の現状を評価し、科目の内容を見直した。

(建築学科・建築学分野)

・月1回程度開催される学科会議において、学生の就学状況に関する情報を共有し、必要な場合には対策について協議・検討を行った。

・学年横断型の設計課題講評会(Vertical Review)を、公大建築会議と併せて前後期各1回開催した。

・外部講師を招いた講評会において卒業設計最優秀賞を授与した。(2/16)

・学科での卒業証書授与式において、建築学科賞(論文)および建築学科賞(設計)をそれぞれ授与した。

(3/24)

・学科OB・OGによる職業ガイダンスを実施した。(7/9、16)

(都市学科・都市学分野)

● 月に1回開催される学科会議において、学生アドバイザーからの報告をもとに学生の履修状況について確認を行った。

● 学科FD集会を2回開催した。第1回(11/4)では、教務課から提供される成績表をもとに総合型選抜入試による入学者を対象に、GPAの推移について情報共有を行った。第2回(3/3)では、近年実施大学が増加している「女子枠」について、導入状況や課題について議論を行った。

定期的に演習・実験科目毎にワーキンググループ活動を行い、演習・実験科目の継続的な品質向上を図った。3年次後期の「スマートシティ創成演習」では、同時期に研究室に配属されることを踏まえ、研究室に関連する文献資料のレビューを行うようにした。都市学実験WGでは、学生のレポート作成

能力について情報共有するとともに、前半担当者の評価・指導方法について意見交換を行った。

● 演習・実験科目ごとのワーキンググループ活動

(電子物理工学科, 電子物理学分野)

○共通

- ・ カリキュラムオリエンテーションを利用して、新入生が大学生活を滞りなくスタートできるように、新入生向けの導入研修を実施した(4月2日実施)。
- ・ 学部生, 院生 (M,D) 向けのオリエンテーションを実施し, 大学生活および単位修得に関する注意喚起を行った(4月1日実施)
- ・ 教室会議において, 入学試験及び入学時アンケートの情報を共有した。
- ・ 特に「電子物理学概論 1, 2」では1年生の意識調査に関するアンケートを実施し, 学科内で共有した。アンケート結果を基にして, 次年度はより充実した講義にするための意見交換を行った。また, 「電子物理学概論 1, 2」の成績を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・ 工学FDセミナー等の学内FDセミナーに参加した(詳細は6.で説明)。
- ・ 編入生が在 student よりも不利にならない時間割構成に関する検討を行った。

○電子物性コース

- ・ 講担会議・教室会議を定期的実施し, 教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・ 前期・後期に実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・ 卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・ 特にM2怠惰学生に対する設定した指導ルールを確認・実行した。
- ・ 教育PDCAサイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し, 講担会議・教室会議(各11回)を通して, 解決に向けた検討を行った。本活動報告の提出後, 学外チェック委員にコメントをいただく予定である。
- ・ 電子物理学実験I, IIについて, 出席・レポート提出状況を担当教員以外にも参照できるようにすることで, 主任や学年アドバイザーの教員等が適宜サポートできる体制を整えた。
- ・ アセスメントシートに基づく点検について講担会議および教室会議で情報共有・意見交換を行い, 点検内容に問題がないことおよび実効性が伴っていることを確認した。

○電子材料コース

- ・ 教室会議を定期的実施し, 教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施した。
- ・ 前期・後期実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・ 卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・ 基幹教育のプログラミング入門A(1年)がプログラミング基礎(2年)に変更されたことに対応して, 材料コースの関連専門科目の配当年次を変更(基礎と専門の同時進行の回避)
- ・ 教育PDCAサイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し, コース教授会・コース教員会議を通して, 解決に向けた検討を行った。本活動報告の提出後, 学外チェック委員にコメントをいただく予定である。
- ・ 電子物理学実験1(電子材料)で開講するテーマ「研究開発実務研修」(工場見学)を毎年継続的に実施。現場見学の重要性を再確認した。
- ・ 電子物理学実験2(電子材料)でのポスター発表会を毎年継続的に実施。学部生のプレゼン・質疑応答の機会提供と彼らの能力把握の機会を持つことの重要性を再確認した。
- ・ 教員数大幅減となる2026年度以降の電子物理学実験1(電子材料)及び2(電子材料)の質維持・

向上を目的として、実験テーマ改訂・担当教員変更・非常勤雇用の計画立案。

(電気電子システム工学科、電気電子システム工学分野)

- ・大学の実施する学生アンケートを学科独自で集計を行い、教員間で共有した。
- ・3年生後期の実験科目のまとめとして成果発表会を実施した。実験担当以外の教員も参加し、実験担当者以外の視点からのコメントを行った。コメントは学生がレポート内にまとめることで実験担当者が共有した。
- ・3年生に研究室の雰囲気を知ってもらい、研究室配属先選択の一助とするため12/1～5に分野全研究室の研究室見学会(オープンラボ)を開催した。
- ・3年生に配属希望研究室の研究内容を知ってもらうため、M1科目の特別演習第2で実施するポスター発表会を3年生の実験科目の中に組み込んだ。
- ・学部3年生や修士1年生をメインの対象とした、博士課程やその進学後のキャリアを考えるセミナーを12/8に開催した。

(応用化学科、応用化学分野)

- ・学年毎に3名の担任教員を設け、4月にカリキュラムに関するオリエンテーションを実施し、年間を通して学生からの相談に応じることのできる体制を敷いている。
- ・実験科目については、基礎教育科目である1年次の基礎化学実験の担当として、学科から複数の教員を出すことによって入学直後の学生の化学に関する理解度を把握し、2年次以降に実施する専門科目である応用化学実験につなげるための学科内での情報共有を行っている。
- ・演習科目については、理解度や学習状況を把握するためのアンケートを実施し、次年度以降の授業改善に向けて活用することになっている。

(化学工学科、化学工学分野)

○学部・課程

- ・化学工学科・課程では、4月および必要な時期に、学年ごとにとりまとめたガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開催し、学生の履修相談等に積極的に助言を与える。また、3年次編入学の学生に対しても別途ガイダンスを開催し、単位認定も踏まえた卒業に向けてのガイダンスを行う。
- ・授業の履修や学生生活における相談窓口として、学生アドバイザーに加え、いつでも教員と相談できるコンタクト教員制度を導入し、修学・進路・家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。特に成績不振者や過年度生について、学生アドバイザーが面談を行い、適切な助言を行う。
- ・毎月、教室会議終了後に職員会議を開催し、授業の履修・出席状況を確認し、学生アドバイザーやコンタクト教員による対応など、問題解決のための協議を行う。
- ・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取組みを続ける。
- ・内部質保証の観点から、学卒の程度の化学工学に関連した専門的応用能力を持っている「技術者」「研究者」を対象にした外部試験として「化学工学技士(基礎)」の受験を推奨し、その結果を今後の教育に反映する。

○大学院

- ・博士前期課程および博士後期課程のすべての学年に対して、ガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを実施し、学生の履修相談、研究の進捗などに積極的に助言を与える。また、大学院博

士後期課程進学における経済的なサポート状況などの大学や工学研究科の制度などを詳しく説明する説明会を開催する。

- ・指導教員のみならず分野長、副分野長、教務委員などが、家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。

- ・毎月授業の履修・出席、研究室での研究の進捗状況を確認し、教室会議終了後の職員会議で報告し、研究指導教員による対応など、問題解決のための協議をする。

- ・大学院の博士後期課程学生の博士研究の進捗状況を分野全教員で共有する。

- ・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取組みを続ける。

(マテリアル工学科・マテリアル工学分野)

- ・学科／分野内 FD 活動計画・進捗などについて議論するため、ワーキンググループを編成した。

- ・毎月開催される担当者会議および教室会議において、成績不振学生への対応、履修状況確認、授業アンケート結果共有など、学科 FD 全般について継続的に議論した。

- ・飛び級候補者および大学院口述試験対象者の選定において GPA 基準を明確化し、公正性・透明性を確保した。

- ・学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、必要に応じて面談を実施し、精神的ケアを含む研究指導支援を行った。

- ・研究指導計画書の作成を徹底し、研究指導体制の質保証を図った。

- ・学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、定期的な面談を行い、精神的なケアを含む研究指導のサポートを行った。

- ・全学 FD セミナーへの参加を呼び掛け、授業改善に資する情報共有を行った。

- ・研究室における事故再発防止および安全管理体制の強化を図り、学生への周知を徹底した。

- ・ハラスメント防止研修を受講し、研究室運営の適正化を図った。

- ・教員人員構成の変化および森之宮キャンパスでの1年次授業実施への対応を踏まえ、講義担当・科目内容・時間割の検討を行った。

- ・大学院他専攻科目履修登録の在り方について検討した。

- ・外部研究者を招いた講演会・合同シンポジウムを開催し、最先端研究に触れる機会を提供した。

- ・国際化推進の観点から海外研修・留学支援制度の周知を行った。

- ・電子ジャーナル契約など、研究環境維持に向けた議論を行った。

- ・入試区分と成績・進学状況との関係について情報共有を行った。

- ・月1回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(化学バイオ工学科、物質化学生命系化学バイオ工学分野)

- ・1-3回生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を半期ごとに行った。4回生および大学院生に対しては、所属研究室の研究指導教員が適宜対応した。

- ・月1回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(量子放射線系専攻)

- ・分野所属教員は、全学 FD 研修や工学研究科 FD セミナー等の学内主催行事に継続的かつ主体的に参加

し、教育方法および指導力の向上に努めている。また、専門分野に関する学外での知識普及活動やアウトリーチ活動にも積極的に参画し、幅広い世代を対象とした量子放射線関連知識の普及を行っている。これらの学外活動から得られた知見を学内 FD 活動に還元し、授業内容の質的向上および時代に即した教育内容への更新に反映させている。

- ・分野内において月 1 回の頻度で教員会議を開催し、その中で FD に関する協議を実施している。学生の講義履修状況や大学院における研究進捗状況について情報共有を行うとともに、単位未修得学生への対応を含め、効果的な学習指導の在り方について議論し、継続的な改善に取り組んでいる。
- ・本分野は学生数と所属教員数が同程度であるという特徴を活かし、きめ細かな学習支援を実施している。履修や研究遂行に困難を抱える学生に対しては、個別相談の機会を頻繁に設けるなど、手厚い支援体制の強化を図っている。
- ・FD 会議において、次年度以降の講義内容およびカリキュラム構成について検討を行い、学生の専門知識の深化と教育水準の向上につながるよう改善を進めている。
- ・博士前期課程 1 年次学生を対象とした研究発表会を分野主催として例年 12 月に実施し、早期から研究の進捗状況を学内教員に広く報告する機会を設けることで、学生の研究意欲の向上および教育効果のさらなる増進を図っている。
- ・博士前期課程 2 年次学生を対象とした修士論文発表会では、全教員によりそのプレゼンテーション能力に対する評価を行い、採点、表彰することで、修了予定者の学位論文をとりまとめる意欲およびプレゼンテーション能力の向上を図っている。

5. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (228) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (247) 人

6. その他、追記事項

(電子物理工学科, 電子物理学分野)

○電子物性コース

- ・講担会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績 (GP) を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。

○電子材料コース

- ・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績 (GP) を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・学部学生用自習室 (B7 棟 E316 室, 昨年度より運用開始) の継続的運用。
- ・2025・2026 年度教員異動後 (減 5 名, 増 1 名) の教育体制維持・向上のために、新規非常勤雇用・量子放射線の教員兼任などの策を検討・予算獲得・承認獲得・人員獲得を実施した。

○セミナー等の参加状況

2025.04.17 全学 FD セミナー「内部質補償スタートアップ支援事業成果報告会」 参加 1 名

2025.04.25 全学 FD セミナー「そのレポート、AI 製? Moodle で始める AI ライティング対応」
参加 10 名

2025.07.02 全学 FD セミナー「大阪公立大学で学生はどう学んでいるのか: 学生調査結果から見える学修

状況」 参加 9 名

2025.08.25 工学 FD セミナー/全学 FD セミナー「研究室等におけるハラスメント事例とその対策」

参加 28 名

2025.10.20 第 4 回教育改革フォーラム/大阪公立大学 全学 FD・全学 SD「生成 AI 時代のレポート課題を考える」 参加 4 名

2025.12.15 全学 FD・SD「FD 研究会 各学位プログラムにおける学生の学修状況・学修成果の評価」
参加 6 名

オンデマンド アクセシビリティセンター研修 2 名

オンデマンド アンコンシャスバイアス研修 1 名

○外部評価

・各コースおよび学科全体の FD 活動について、学外評価者から PDCA サイクルに従ってよく活動できているとの評価があった。

(化学バイオ工学科, 物質化学生命系化学バイオ工学分野)

・1-3 年生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を半期ごとに行った。4 年生および大学院生に対しては、所属研究室の研究指導教員が適宜対応した。

・月 1 回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

農学部・研究科

1. 各部署の FD の検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)

1. 各専攻・各学科における FD 関連事項に関して協議する場を持った。

2. 学部教務委員会および研究科教務委員会において FD 関連事項に関して協議した。

3. カリキュラムの改善(現行科目の見直しなど)を検討した。

4. FD に関する講演会および農学セミナー(教員のプレゼンテーション能力を改善するとともに、研究分野の最新的话题を教員・学生等に提供するためのセミナー等)を開催し、参加を推進した。

5. 研究公正に関する知識習得機会の利用を推進した。

6. 海外等から招聘する教員や visiting professor による講演を積極的に実施した。

7. 一部の科目において講義科目において独自の授業アンケートを積極的に実施した。

8. 「授業振り返り(授業アンケート)」への積極的な参加を学生に呼びかけるとともに、教員コメントの入力も推進した。

9. 学部においては各学年のアドバイザーの間での情報交換を行った。

10. 学期ごとの単位修得状況を、学生アドバイザー及び指導教員等が把握し、学生に対する個別指導を行った。

11. 「障がいのある学生への合理的配慮」等、学生からの修学上の支援要請がある場合、教員間での情報共有等の適切な対応を行った。

12. GPC 成績一覧表を参考に各専攻・学科内で協議し、講義内容と評価方法の改善を促した。

2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容 (タイトル)	参加者数 (内教員数)
2025年4月22日(火)	農学セミナー1 ・ストレス耐性農作物作出に向けての研究／白柿 薫平 (大阪公立大)、オーガナイザー：手塚 孝弘	31 (16)
2025年5月22日(火)	農学セミナー2 ・ Phylogenomics clarifies Balanophora evolution, metabolic retention in reduced plastids, and the origins of obligate asexuality／Petra Svetlikova (OIST)、オーガナイザー：青木 考	10 (3)
2025年5月30日(金)	第1回絵札研究会 ・「植物由来タンパク質を用いた感染症対策プラットフォームの構築」／望月 知史 (大阪公立大)、オーガナイザー：小泉 望	49 (20)
2025年7月4日(金)	農学セミナー3 ・ Cell-to-cell transport in differentiated roots／Marie Barberon (Univ. Geneva), Cellular adaptations to organic transport in plants／Lothar Kalmbach (Univ. Neuchatel)、オーガナイザー：高野 順平	21 (5)
2025年8月1日(金)	第2回絵札研究会 ・「京都府立大学における「食」に関する「学際教育、産学公連携、起業」の取組み」／増村 威宏 (京都府立大)、オーガナイザー：小泉 望, 横井 修司	50 (15)
2025年9月25日(木)	農学セミナー4 ・化学と生物で解き明かすエネルギー代謝の構造と機能／村井 正俊 (京大)、オーガナイザー：甲斐 建次	60 (9)
2025年9月29日(月)	第3回絵札研究会 ・「都市農業の社会実装構想と実践」／芹澤 孝悦 (プランティオ株式会社) 他、オーガナイザー：横井 修司	50 (15)
2025年10月15日(水)	農学セミナー5 ・ The molecular interaction between host sunflower and parasitic broomrape／Da Ha (Inner Mongolia Univ.)、オーガナイザー：岡澤 敦司	21 (9)
2025年10月22日(水)	農学セミナー6 ・ Site-specific histidine aza-michael addition in proteins enabled by a ferritin based metalloenzyme／Yane-Shih Wang (Natl. Taiwan Normal Univ.)、オーガナイザー：藤枝 伸宇	23 (2)
2025年10月30日(木)	農学セミナー7 ・ Role of inositol pyrophosphates in phosphate sensing, plant-microbe interactions and immunity／Gabriel Schaaf (Univ.	29 (6)

	Bonn)、オーガナイザー：高野 順平	
2025年10月31日(金)	農学セミナー8 ・AGO5 restricts virus vertical transmission in plant gametes／Marco Incarbone (MPI-MP)、オーガナイザー：望月 知史	16 (5)
2025年11月7日(金)	農学セミナー9 ・腸内細菌叢の形成メカニズムと宿主との相互作用／高田 紘翠 (大阪公立大)、オーガナイザー：片岡 道彦	30 (9)
2025年11月12日(水)	農学セミナー10 ・農薬の安全性を巡る攻防：科学と社会の接点／的場 好英 (住友化学株式会社)、オーガナイザー：小泉 望	25 (11)
2025年11月18日(火)	農学セミナー11 ・植物の「高温ストレス耐性と成長のトレードオフ」の分子の実体の解明／高塚 大知 (奈良女子大)、植物細胞内の『超混雑環境』でオルガネラ動態を維持する仕組み／甘利 俊樹 (金沢大)、オーガナイザー：稲田 のりこ	16 (5)
2025年12月3日(火)	農学セミナー12 ・Biotechnological approaches in crop breeding: advancing food and nutritional security／Iqbal Munir (Univ. Agric., Peshawal)、オーガナイザー：中澤 昌美	39 (4)
2026年12月5日(金)	第4回絵札研究会 ・「Plant Made Pharmaceuticals セミナー」／厚見 剛 (産総研) 他、オーガナイザー：望月 知史	90 (9)
2025年12月12日(火)	シンポジウム「自然共生を基盤とする農学を考える」—Pioneering the future of farming ・持続可能性を究める研究で農を拓く—／鈴木 丈詞 (東京農工大) 他、オーガナイザー：青木 考, 岡澤 敦司, 望月 知史	30 (10)
2025年12月12日(火)	農学セミナー13 ・グローバルリーダー奨学金制度の紹介／木下 花菜子 (大阪公立大)、オーガナイザー：小泉 望	10 (10)
2026年1月21日(水)	第5回絵札研究会 ・「農学研究科における産学連携ピッチトーク」～企業との出会いや協働の進め方～／東條 元昭 (大阪公立大) 他、オーガナイザー：岡澤 敦司	40 (20)
2026年3月31日(水)	第6回絵札研究会 ・農学から世界へ Agriculture Toward a Global Future／白石 晃将 (京大)、オーガナイザー：三浦 夏子	62 (13)
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日	委員の人数

	(複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	
農学研究科教務委員会	第1回(6月9日) ・農学部FD活動の取組予定内容の審議(学部と合同提出)についてなど 第2回(10月15日) ・アセスメントシートの作成、自己点検・評価報告書の作成、年次点検評価報告書についてなど 第3回(11月20日) ・カリキュラム変更の審議、科目ナンバリングの見直し、農学研究科カリキュラム・ポリシーの修正についてなど 第4回(12月17日) ・農学研究科要覧の作成、農学研究科規程の改正についてなど	8
農学部教務委員会	第1回(5月13日) ・部局FDの実施計画作成依頼についてなど 第2回(6月11日) ・農学部FD活動の取組予定内容の審議(研究科と合同提出)、カリキュラム変更の検討、アセスメントリストの再検討についてなど 第3回(7月9日) ・森之宮キャンパスで開講される農学部専門科目の再履修に関する申しあわせについて、全学自己点検・評価の実施についてなど 第4回(9月10日) ・大阪公立大学科目等履修生に関する依頼についてなど 第5回(10月14日) ・アセスメントシートの作成、年次点検評価報告書、カリキュラム変更についての審議など 第6回(11月11日) ・農学部カリキュラム・ポリシーの修正、科目ナンバリングの見直しについてなど 第7回(12月9日) ・履修要項の作成、農学部規程の改正についてなど 第8回(1月20日) ・農学部規程の改正の審議、部局FDの実施報告の作成について	8
応用生物科学専攻・学科会議	第1回(4月25日) ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、学部・学科	22

	<p>の HP 更新についてなど</p> <p>第 2 回 (6 月 2 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、大学院科目のカリキュラム変更、副専攻、GP・GPC の検討、ていら・みすのデータ、3 年生キックオフミーティングについてなど <p>第 3 回 (6 月 30 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、大学院副指導教員との面談、森之宮キャンパス開講科目、転学部・転学科の実施についてなど <p>第 4 回 (7 月 28 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、将来計画検討委員会報告、副専攻、オープンキャンパスについてなど <p>第 5 回 (8 月 25 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、オープンキャンパスについてなど <p>第 6 回 (9 月 29 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、副専攻、大阪サイエンスデイについてなど <p>第 7 回 (10 月 27 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、農学部教務委員会での検討事項についてなど <p>第 8 回 (12 月 1 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、高校生向け農学セミナー、GP・GPC の検討、授業ふり返しについてなど <p>第 9 回 (12 月 19 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、研究科教務委員会からの確認事項、実験機器充実負担金・実習充実負担金 WG についてなど <p>第 10 回 (2 月 2 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・学部会議報告、学域運営会議報告、学生の動向についてなど 	
<p>応用生物科学科実験・実習担当者会議</p>	<p>第 1 回 (2 月 2 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度学生実験・実習の担当者や内容についてなど 	<p>6</p>
<p>生命機能化学専攻教員会議</p>	<p>第 1 回 (4 月 30 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究 G 配属ルールについて <p>第 2 回 (6 月 3 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 年進級に課題のある学生について <p>第 3 回 (7 月 1 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席学生について 	<p>22</p>

	<p>第4回（9月2日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理について <p>第5回（9月29日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の持つ学科に対するイメージ調査としてのワードクラウド作成について <p>第6回（10月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品安全科学プログラム履修に関わる交通費補助について ・農学部オープンセミナー（森田先生担当）について ・ワードクラウド作成のアンケート調査依頼について ・留年生の4年生進級について ・大学院入試の募集の取り決めについて <p>第7回（12月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品安全科学プログラム履修について <p>第8回（2月2日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留年生の4年生進級について 	
生命機能化学専攻教授会議	<p>第1回（4月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目および担当の編成について ・生命機能化学キャリアデザインの研究所見学について <p>第2回（7月1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目および担当の編成について <p>第3回（10月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋入学について <p>第4回（12月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コース提供科目について <p>第5回（2月2日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目および担当の編成について 	8
生命機能化学科実験担当者会議	<p>第1回（7月29日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度学生実験 TA 業務についてなど <p>第2回（12月2日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生実験室備品の実査など <p>第3回（12月11日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生実験用機器についてなど <p>第4回（2月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度学生実験についてなど 	14
緑地環境科学専攻教員会議	<p>第3回（6月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の規定の確認について 	18
緑地環境科学専攻教員会議	<p>臨時教員会議（8月5日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程の定員について 	12
緑地環境科学専攻教	<p>第5回（9月26日）</p>	13

<p>員会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教学アセスメントの確認について ・修業年限以内の修了率を高めるための取り組みについて ・カリキュラムマップに基づく履修指導の検討について 	
<p>4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組</p>		
<p>【応用生物科学科・専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議（6月2日）において、2024年度前期および後期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 ・学科会議（12月1日）において、2025年度前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 <p>【生命機能化学科・専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科・専攻メール会議（5月15日）において、2024年度前期および後期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 ・学科・専攻メール会議（1月9日）において、2025年度前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 <p>【緑地環境科学科・専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑地環境科学専攻教員会議（5月30日）において、2024年度前期および後期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 ・緑地環境科学専攻教員会議（9月26日）において、2025年度前期および後期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。 		
<p>5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （67名（応生22名、生命23名、緑地22名））人 ・所属内の専任教員の人数（67名（応生22名、生命23名、緑地23名））人 		
<p>6. その他、追記事項</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度後期からの森之宮キャンパス開設に伴い、1年生担当専門必修科目（森之宮開講）の再履修に関して農学部内での申し合わせを行った。2年生以上の再履修生については、森之宮キャンパスで受講できない場合に限り、非同期オンライン授業で受講できるシステムを構築し、運用した。 ・12月15日開催のFD研究会セミナー「各学位プログラムにおける学生の学修状況・学修成果の評価」において、農学部・研究科より「農学部・研究科における学生の学修状況・学習成果の評価」のタイトルで話題提供を行った。 ・大学教育だよりに、農学部・農学研究科より「応用生物科学専攻における副研究指導教員を活用した大学院研究指導体制」について寄稿した。 		

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

- GPC 成績一覧表を学部内で共有するとともに、講義内容と評価方法の改善に向け、教員会議において協議した。
- 著名な研究者を招聘し、獣医学専攻教員のスキル向上のための集談会を実施した。
- 若手教員が中心として主催した研究交流会「りんくう研究セッション」を実施した。
- 卒業研究発表について、優秀学生の表彰を行った。
- 卒業研究の実施について、研究室配属に向けて説明会を実施するとともに、研究室への訪問機会を設定した。
- 現在移行中の新カリキュラムについて、授業内容や卒業研究の実施内容等の検討・改善を図った。
- 医療面接実習のための事前および事後の振り返りに関わる研修を実施した。
- 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して、飼い主様への対応を向上させるための研修を実施した。
- 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して、臨床技術を向上させるための OMU-VMC セミナーを実施した
- 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して、生命倫理と安全管理に関する研修を実施した。

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
2026年1月7日	獣医学コアカリ改訂に係る合同会議（対面）	18名
2025年6月21日、6月28日、12月6日、12月20日、12月6日	医療面接実習スーパーバイザー講習(医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修)	15名
2025年4月23日	第4回りんくう研究セッション「伴侶動物と人獣共通感染症～薬剤耐性菌の話を中心に」安木真世（本学）	10名
2025年5月28日	第5回りんくう研究セッション「イメージング技術を用いた内分泌・代謝研究 Update：神経代謝学への展望を添えて」谷田任司（本学）	10名
2025年7月18日	第6回りんくう研究セッション「伴侶動物の多能性幹細胞研究：臨床応用までのロードマップ」塚本雅也（本学）	10名
2025年9月16日	第7回りんくう研究セッション「ウイルス探索から明らかにする新たな生命現象」岸本麻衣（本学）	10名
2025年10月22日	第8回りんくう研究セッション「肝疾患における細胞間相互作用の破綻」松原三佐子（本学）	10名
2025年11月17日	第9回りんくう研究セッション「腸管における超硫黄分子の役割解明に向けた研究～腸内細菌に対する遺伝子工学的手法を用いて～」西山和宏（本学）	10名
2026年1月7日	第10回りんくう研究セッション「カンピロバクター食中毒の制御と、カンピロバクターが産生する細胞膨化	10名

	致死毒素に関する研究」畑中律敏（本学）	
2025年12月25日	獣医学専攻オープンセミナー/健康社会の実現に向けた腸内環境研究の最前線/國澤 純 先生/国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 副所長/センター長	10名
2025年7月7日	獣医学専攻国際オープンセミナー/Qijing Zhang, BVsc, MS, PhD/Veterinary Education in the U.S.: Past, Present and Future/Clarence Hartley Covault Distinguished Professor Dr. Roger and Marilyn Mahr Chair in One Health College of Veterinary Medicine, Iowa State University	15名
2025年10月20日	獣医学専攻国際オープンセミナー/The Study Program in Veterinary Medicine at Hasanuddin University: Nurturing Competent Veterinarians for Regional and Global Challenges/Dwi Kesuma Sari/Laboratory of Veterinary Pathology, Veterinary Medicine Study Program, Faculty of Medicine, Hasanuddin University	15名
2025年10月20日	獣医学専攻国際オープンセミナー/"Repeat Breeding in Cattle Under Smallholder Farming Systems: Risk Factors and Physiological Profiles"/Fika Yuliza Purba /Laboratory of Veterinary Reproduction, Veterinary Medicine Study Program, Faculty of Medicine, Universitas Hasanuddin	15名
2025年10月20日	獣医学専攻国際オープンセミナー/Styrene Toxicity in the Embryonic Development of Celebes Medaka (Oryzias celebensis, Weber 1894): An Assessment of the Plastic Monomer's Impact/Amelia Ramadhani Anshar/Laboratory of Veterinary Pharmacology and Toxicology, Veterinary Medicine Study Program, Faculty of Medicine, Hasanuddin University	15名
2025年10月20日	獣医学専攻国際オープンセミナー/Hasanuddin University Veterinary Teaching Hospital: The Integration of Clinical Services, Professional Education, and Animal Welfare Research/Andi Magfira Satya Apada/Laboratory of Veterinary Microbiology, Veterinary Medicine Study Program, Faculty of Medicine, Hasanuddin University	15名
2025年9月17日	1st Joint Research Retreat: Nara Women's University × Dept. Veterinary Anatomy, Osaka Metropolitan University @ Rinku Campus (奈良女子大学 高浪 景子 先生、公立大 谷田 任司)	12名
2025年5月30日	サイエンスカフェ/アメリカでの獣医幹細胞研究/木村 和人 先生/カリフォルニア大学デイビス校獣医学部研究員	33名
2025年5月30日	サイエンスカフェ/北米獣医解剖病理専門医取得への道とアメリカにおける病理症例紹介/佐々木 瑛美 先生/レイジアナ州立大学獣医学部 Assistant Professor	33名

3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
獣医学コアカリ改訂に係る合同会議	獣医学教育におけるコアカリの現状および将来構想に関する討議 2026年1月7日	18名
CBT運営委員会	第1回(2025年5月30日) CBTトライアルおよび本試験の実施行程および内容の検討 第2回(2025年12月5日) CBTトライアルおよび本試験の実施行程および内容の検討	7名
図書委員会	図書室の利用、蔵書、および管理運営について審議(第1回6月20日(金)、第2回10月1日(水))	6名
学部・学類運営委員会	カリキュラム、インターンシップ科目および授業実施方法などについて情報共有と検討を行った。	10名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		
<ul style="list-style-type: none"> 卒研検討委員会(委員9名)にて、5月の獣医学演習と12月の卒業研究発表会の実施および学生の発表内容等について改善を図るために意見交換と討議を行った。さらにその検討内容を教員会議に報告し情報共有を行った。(1年間で、対面、Zoomおよびメール会議含め、十回程度の会議を実施) OSCE委員会(委員13名)では、2025年度のOSCE本試験の実施およびこれに向けた実習の改善と審査を担当する教員の訓練の実施等について、検討を行った。具体的には、主に委員長と4分野の責任者間でメールや電話連絡による打合せと情報共有を行った(1年間で数十回程度の打ち合わせを実施)。さらに、臨床基礎実習で、各分野の担当教員がOSCE試験の内容を確認・習熟し、理解を深めた上で学生教育を行った。また、これ以外にも、各試験分野の実施内容について分野責任者が全大学の責任者と直接やり取りし、委員会で情報共有を行った。 		
5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (47)人 ・所属内の専任教員の人数 (47)人		
6. その他、追記事項		
特になし		

医学部医学科・医学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)		
教育活動等について講演するFD講演会を年4回実施している。 ワークショップ形式により医学教育について涵養するFD-WSを年2回実施している。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容(タイトル)	参加者数

<p>2025年6月11日(水) 13:00~17:00</p>	<p>第13回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会「ワークショップとは？」 おしながき スタッフ紹介 13:10 【W1】 教育：困っていること・悩んでいること・ 具体的な経験事例 13:50 【D1】 全体発表 14:10 【W2】 事例の対応・解決策・振り返り 14:55 【D2】 全体発表 15:20 休憩 15:30 【L】 学生評価と学習の種類 15:50 【W3】 卒業時目標設定&ロードマップ作製 16:25 【D3】 全体発表 16:45 【D4】 振り返り 16:50 閉会実績証贈呈、集合写真撮影 【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション</p>	<p>49人</p>
<p>2025年6月9日(月) 17:30~18:30</p>	<p>2025年度 第1回 教育分野FD講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2024 受賞講演】 「私の教育への取り組み 2025」公衆衛生学 大藤さとこ 准教授 ○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「解剖学における水平垂直統合型授業～学生の意気軒昂 を高める授業を目指して～」 機能細胞形態学 松原 勤 准教授 ○【シリーズ：2024 医学教育分野別認証評価を終えて】 「『領域5：教員』～教員への教育とエンカレッジメント の重要性～」 病態生理学 大谷 直子 教授</p>	<p>149人</p>
<p>2025年9月10日(水) 17:30~18:30</p>	<p>2025年度 第2回 教育分野FD講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2024 受賞講演】 「アクティブラーニングに向けた試み」 分子制御生物学 塩田 正之 准教授 ○「模擬患者の活動とは？ ～あべのSP本舗の歴史と next stage～」 総合医学教育学 幕内 安弥子 講師 ○【シリーズ：2024 医学教育分野別認証評価を終えて】 「領域7：教育プログラム評価」 代謝内分泌病態内科学 森岡 与明 准教授</p>	<p>166人</p>
<p>2025年12月1日(月) 13:00~17:00</p>	<p>第14回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会「ワークショップとは？」</p>	<p>39人</p>

	<p>おしながき スタッフ紹介</p> <p>13:10 【W1】 教育：困っていること</p> <p>13:50 【D1】 全体発表</p> <p>14:10 【W2】 困っていることへの対応方法</p> <p>14:55 【D2】 全体発表</p> <p>15:20 休憩</p> <p>15:30 【L】 学生評価と学習の種類</p> <p>15:50 【W3】 卒業時目標設定&ロードマップ作製</p> <p>16:25 【D3】 全体発表</p> <p>16:45 【D4】 振り返り</p> <p>16:50 閉会実績証贈呈、集合写真撮影</p> <p>【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション</p>	
<p>2025年12月10日(水)</p> <p>17:30~18:30</p>	<p>2025年度 第3回 教育分野FD講演会</p> <p>○【シリーズ：Teacher of the Year 2024 受賞講演】 「私が考えるCCにおける実習と講義」 消化器外科学 豊川 貴弘 准教授</p> <p>○「早期臨床実習3-Third Exposure-について」 学務課 河村 光将 係長</p> <p>○【シリーズ：2024医学教育分野別認証評価を終えて】 「領域1-使命と学修成果-」 女性病態医学 角 俊幸 教授</p>	140人
<p>2026年3月9日(月)</p> <p>17:30~18:30</p>	<p>2025年度 第4回 教育分野FD講演会</p> <p>○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「医学研究推進コース3における合同発表会の取り組み」 細菌学 金子 幸弘 教授</p> <p>○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「臨床診療科での修業実習：脳神経外科における試みと成果」 脳神経外科学 一ノ瀬 努 准教授</p> <p>○【シリーズ：2024医学教育分野別認証評価を終えて】 「領域3-学生の評価-」 呼吸器内科学 浅井 一久 准教授</p>	131人
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	<p>内容・開催日</p> <p>(複数回の場合は「第1回(*月*日)~について」 「第2回…」と記載)</p>	委員の人数
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組		

<p>5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (206)人 ・所属内の専任教員の人数 (278)人（2026年4月1日現在）
6. その他、追記事項

医学部リハビリテーション学科・リハビリテーション学研究所

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>部局FDの検討・実施体制は、部局教務委員会内に設置している。委員会の構成は、リハビリテーション学支援室教務担当事務3名、理学療法学専攻教員3名、作業療法学専攻教員2名の合計8名である。委員会は、月1回の頻度で開催し（8月は休催）、学内セミナーの周知、カリキュラム、シラバス記載方法の周知、GPC分布確認などを中心に論議している。委員会での審議および報告事項は、部局教授会を通し、各専攻にて周知している。</p>																	
<p>2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">開催日</th> <th style="width: 60%;">内容（タイトル）</th> <th style="width: 20%;">参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2025年5月16日13時</td> <td>第1回臨床実習指導者会議（臨床施設参加32名,教員12名）</td> <td>44名</td> </tr> <tr> <td>2025年5月16日15時</td> <td>第2回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>2025年7月7日</td> <td>第3回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td>2026年3月16日</td> <td>第4回臨床実習指導者会議（臨床施設参加23名,教員11名）</td> <td>34名</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	内容（タイトル）	参加者数	2025年5月16日13時	第1回臨床実習指導者会議（臨床施設参加32名,教員12名）	44名	2025年5月16日15時	第2回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）	30名	2025年7月7日	第3回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）	30名	2026年3月16日	第4回臨床実習指導者会議（臨床施設参加23名,教員11名）	34名
開催日	内容（タイトル）	参加者数															
2025年5月16日13時	第1回臨床実習指導者会議（臨床施設参加32名,教員12名）	44名															
2025年5月16日15時	第2回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）	30名															
2025年7月7日	第3回臨床実習指導者会議（臨床施設参加18名,教員12名）	30名															
2026年3月16日	第4回臨床実習指導者会議（臨床施設参加23名,教員11名）	34名															
<p>3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">会議・委員会名</th> <th style="width: 50%;">内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)〜について」 「第2回…」と記載)</th> <th style="width: 25%;">委員の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部局教務委員会</td> <td>月1回(水曜日) カリキュラム, 評定, シラバスなど</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>理学療法学専攻会議</td> <td>隔週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>作業療法学専攻会議</td> <td>週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table>			会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)〜について」 「第2回…」と記載)	委員の人数	部局教務委員会	月1回(水曜日) カリキュラム, 評定, シラバスなど	8名	理学療法学専攻会議	隔週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など	12名	作業療法学専攻会議	週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など	12名			
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)〜について」 「第2回…」と記載)	委員の人数															
部局教務委員会	月1回(水曜日) カリキュラム, 評定, シラバスなど	8名															
理学療法学専攻会議	隔週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など	12名															
作業療法学専攻会議	週1回(月曜日) カリキュラム, 評定, シラバス, 臨床実習, 国家試験など	12名															
<p>4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組</p> <p>1) 自己点検・自己評価</p> <p>厚生労働省通知「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正」に則り、「教員資格及び教育内容等の自己評価書様式」にて、自己評価を実施し、ホームページ上に公表した。 (https://www.omu.ac.jp/reha/about/self-inspection/)</p> <p>2) 2026年度のカリキュラム改訂</p> <p>2026年度の基幹教育科目再編に向けて、カリキュラム改正作業を行った。</p> <p>3) 2027年度のカリキュラム改訂にむけたWG</p>																	

理学療法学専攻 2 名，作業療法学専攻 2 名の計 4 名を WG チーム員とし，月 1 回の頻度で検討を進めている。チーム員に全学の将来構想委員会のメンバーを入れ，リハビリテーション学科・リハビリテーション研究科として，本学の将来構想を踏まえ，他大学との差別化を目指して検討を重ねた。各専攻での議論を経て教務委員会で承認し教授会の承認を得，具体的な変更申請手続きを進めているところである。

5. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (24) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (24) 人

6. その他、追記事項

1) 履修証明プログラム

大学院において履修証明プログラム「地域リハビリテーション学コース」を開講している(厚生労働省認定：職業実践力育成プログラム)。事務局 2 名，リハビリテーション学研究科教員 4 名の合計 6 名体制で運営している。受講生は，学部の卒業生をはじめ，他大学の教員，臨床の理学療法士・作業療法士である。2025 年度には 13 期生を迎え，12 期生までの総修了生数は 366 名である。

2) 2025 年度の内部質保証スタートアップ事業 (ICT を活用した学外臨床実習時の学生・臨床実習指導者・教員のリアルタイム連携システムおよびポートフォリオの構築と学修成果)

昨年度から引き続き，臨床実習における教育効果の向上・深化を目指して臨床実習支援システムを活用している。理学療法学専攻と作業療法学専攻の代表教員 3 名にて，当システム活用して作成したポートフォリオの確認，利用効果の検討などを行う会議を 4 回開催した。今後は就職活動におけるポートフォリオの活用状況を検証する予定である。

看護学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)

今年度より、看護学部に教育改革委員会を設置し、所掌事項の一つとして FD の検討および実施を位置づけている。

2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容 (タイトル)	参加者数
2025 年 12 月 18 日 14:00~16:00	FD 研修会 研究倫理：責任ある研究活動に向けて	67 名
7 月 3 日	第 1 回 FD カフェ CNS 資格をもつ大学教員としての社会貢献活動	36 名
9 月 26 日	第 2 回 FD カフェ 健康・防災サポートプロジェクト	31 名
1 月 30 日	第 3 回 FD カフェ Generative AI: Hack or Cheat?	33 名
2026 年 3 月 9 日	第 4 回 FD カフェ	45 名

12:20～13:00	看護実践能力の担保を目指す OSCE	
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
教育改革委員会	第1回 教育改革委員会 (2025年4月16日) 新カリキュラムの授業概要・実習配置表、教育改革委員会の活動内容とその運営方法について	12名
教育改革委員会	第2回 教育改革委員会 (2025年5月19日) FD活動の企画、コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備について	12名
教育改革委員会	第3回 教育改革委員会 (2025年6月19日) アセスメント・ポリシーとアセスメントリストの検討、FD活動の企画、コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備について	12名
教育改革委員会	第4回 教育改革委員会 (2025年7月23日) FD活動の企画、コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備について	12名
教育改革委員会	第5回 教育改革委員会 (2025年9月4日) コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備について	12名
教育改革委員会	第6回 教育改革委員会 (2025年10月6日) FD活動の企画、コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備について	12名
教育改革委員会	第7回 教育改革委員会 (2025年11月6日) コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備(基礎看護学実習の履修要件、要覧、新カリキュラムへの移行に伴う科目の読み替え)、大学院カリキュラムの検討について	12名
教育改革委員会	第8回 教育改革委員会 (2025年12月10日) FD活動の状況、コンピテンシー基盤型教育の推進、新カリキュラム開始準備、大学院カリキュラムの検討について	12名
教育改革委員会	第9回 教育改革委員会 (2026年1月9日) FD活動の状況、新カリキュラム開始準備(読み替え科目)、大学院カリキュラムの検討(2027年度からの大学院教育課程)について	12名
教育改革委員会	第10回 教育改革委員会 日 時: 2026年2月12日(木) 16:30～18:00	12名
教育改革委員会	第11回 教育改革委員会 日 時: 2026年3月12日(木) 16:30～17:20	12名
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組		

看護学部では、教育改革委員会委員が調整し、教務委員会、学生委員会、就職委員会、部局評価委員会が連携し、教学アセスメントにおける年次点検評価を実施した。

5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

- ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 60 ）人
- ・所属内の専任教員の人数 （ 67 ）人

6. その他、追記事項

生活科学部・生活科学研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

研究科長、教育研究審議員、専攻長、全学共通教育教務委員、教育改革委員、大学院教務委員、学部教務委員、各学科会議

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数

3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催

会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数
大学院教務委員会	毎月第2水曜日	14名
学部教務委員会	毎月第2水曜日	13名
学科会議（各学科）	毎月第4水曜日	全教員

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組

- ・学習進捗評価シートによる学習支援や教育改善
- ・卒業研究および修士研究の達成評価シートによる質向上と、評価基準の共有
- ・合同ゼミによる卒業研究の共同指導体制
- ・卒業論文発表会、修士論文発表会、博士学位論文公聴会の実施
- ・成績評価の基準、課題等について検討
- ・GP分布、およびGPCデータの共有、成績分布の点検、分析
- ・シラバス点検に係るデータの共有、シラバス改善の検討
- ・卒業者・修了者の数や入学年度に関するデータの確認、分析
- ・学生調査データの共有、結果の確認、必要に応じて各教員の指導方針の改善の参考とする。
- ・欠席者、成績不振者に対するクラス担任による個別面談、保護者への連絡対応

5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

- ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 56 ）人
- ・所属内の専任教員の人数 （ 56 ）人

6. その他、追記事項

- ・部局 FD 活動の取り組みについて 策定・提出（6月）
- ・厚生労働省 管理栄養士養成施設 実地調査（食栄養学科・森ノ宮キャンパス、9月）
- ・教学アセスメントリストにおける年次点検評価報告 策定・提出（10月）
- ・第4回FD研究会 報告（12月）、大阪公立大学 大学教育に掲載（3月）

国際基幹教育機構

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

機構内教育改革委員会（副機構長、大学教育 G から4名、その他の教員 G から3名）を設置している。高等教育研究開発センターが主催する全学FD以外の機構内FDは、教員所属G単位または科目委員会単位で検討・実施されている。機構内教育改革委員会は、FD実施計画と実施状況のとりまとめを行っている。

2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
【人権 G】		
2025年8月25日	人権問題研究センター共催 工学FDセミナー・全学FDセミナー 「研究室等におけるハラスメント事例とその対策」	222名
2026年3月10日	人権問題研究センター共催 アクセシビリティセンター主催 FD/SD研修「権利保障としての合理的配慮」	118名
【大学教育 G】		
12月23日	初年次ゼミナール説明会	79人
11月5日	第2回初年次ゼミナール実践事例共有会（高等教育研究開発センター主催・全学FD）で、初年次ゼミナールの実践事例2件の共有と次年度以降の科目改編の説明を行い、質疑や全体討論も行った。	75人
【教職 G】		
2025年12月9日	教職FDセミナー（教職センター主催）	18名
2026年2月20日	全学FD・第3回高大接続セミナー（教職センター共催）	65名
【英語 G】		
12月23日	University English 1A・2A カリキュラム改訂説明会	（記録なし）
12月8日	University English B 科目 カリキュラム説明会	（記録なし）
12月10日	University English B 科目 カリキュラム説明会	（記録なし）
【初修外国語 G】		
2025年4月4日	ウェビナー「ロシア語の初級および中級レベルでの音声教育方法における擬音語の使用」について	7
【健康・スポーツ科学 G】		

【杉本キャンパス】		
2025年4月8日(火) 11時45分～	第1回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	9
2025年4月10日(木) 11時45分～	第2回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	11
2025年4月10日(木) 17時45分～	第3回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	8
【森之宮キャンパス】		
2025年9月30日(火) 11時45分～	第1回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	10
2025年9月30日(火) 16時00分～	第2回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	13
2025年10月2日(木) 12時10分～	第3回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	9
2025年10月2日(木) 16時00分～	第4回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	10
【数学G】		
8月20日	数学FDミーティング(成績評価について)	約40
3月1日(2日)	数学FDミーティング(成績評価について, 他・予定)	約40
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」「第2回…」と記載)	委員の人数
【人権G】		
HR(人権)副専攻担当者会議	前期、後期が始まる前に計画した教育方法・教育内容について、学生の理解や関心に合わせて改善するため、各回の授業後に検討会を行った。(計5回程度)	2名
【大学教育G】		
大学院共通教育科目委員会	メール会議(10月18日～22日)で、機構内自己点検評価に関する大学院の必修科目とキャリアに関わる事項を検討し、機構内教育改革委員長に報告した。	4人
初年次教育科目委員会	メール会議にて、昨年度開講科目の教学アセスメントを行った他、2026年度からの開講形態変更に合わせて「実施の手引き」の改訂について審議をした。	4人
【教職G】		
教職グループ会議(4月)	4月25日; 議題「今年度のFD活動の計画について」	5名
教職センター	7月15日; 「点検評価の指標・エビデンスリスト」(教職センター案)の	

会議（第3回）	確定	10名
【英語G】		
英語科目委員会 会議	第1回（4月11日）授業・カリキュラム運営について	15
英語科目委員会 会議	第2回（5月9日）授業・カリキュラム運営について	13
英語科目委員会 会議	第3回（6月14日）授業・カリキュラム運営について	14
英語科目委員会 会議	第4回（7月11日）授業・カリキュラム運営について	14
英語科目委員会 会議	第5回（9月12日）授業・カリキュラム運営について	15
英語科目委員会 会議	第6回（10月3日）授業・カリキュラム運営について	13
英語科目委員会 会議	第7回（11月7日）授業・カリキュラム運営について	13
英語科目委員会 会議	第8回（12月5日）授業・カリキュラム運営について	13
英語科目委員会 会議	第9回（1月9日）授業・カリキュラム運営について	13
英語科目委員会 会議	第10回（2月16日）授業・カリキュラム運営について	12
カリキュラム改 訂委員会	第1回（4月18日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第2回（4月30日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第3回（5月7日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第4回（5月14日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第5回（5月21日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第6回（5月28日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第7回（7月30日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	
カリキュラム改 訂委員会	第8回（9月5日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改 訂委員会	第9回（10月1日）UE1A・2A カリキュラム改訂について	4

訂委員会		
カリキュラム改訂委員会	第10回(10月3日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第11回(12月17日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第12回(1月7日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第13回(1月19日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第14回(2月2日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	
カリキュラム改訂委員会	第15回(2月10日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第16回(2月13日) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
カリキュラム改訂委員会	第17回(2月18日予定) UE1A・2A カリキュラム改訂について	4
【初修外国語 G】		
ロシア語科目の会議	2025年4月4日に、ロシア語ミーティングを実施した。2024年度のロシア語授業の経験や意見を交換し、2025年度のロシア語教育の授業の計画と変更について討議した。	8
【特例科目 G】		
特例科目委員会	第1回(6月17日)：以下について審議・報告を行なった。 ・審議：2026年度の時間割編成(科目新設・科目名変更)、2025年度FD実施計画 ・報告：OSIP事業、2025年度前期の受講者数、特別履修生受入れ状況等 第2回(9月26日)：新設する科目の申請書およびシラバス案について 第3回(10月9日)：教学アセスメントについて 第4回(2月10日)：FD実施報告について	2
教育推進課国際教育担当との協議	4月23日 2025年度以降の初級日本語教育の体制について 7月25日 2025年度後期の「日本語補講」の体制について 8月28日 2025年度後期の「日本語補講」の実施について 2月3日 2025年度後期および2026年度以降の「日本語補講」の体制について	6
留学生就職促進教育プログラム(留プロ)担当者との協議	7月30日 留プロに提供する日本語科目・プログラムについて 1月6日 留プロに提供する日本語科目・プログラム(中級レベル)について	4

【健康・スポーツ科学 G】		
健康・スポーツ科学 科目委員会	<p>第1回(5月21日) 2025年度FD実施計画について、その他</p> <p>第2回(6月18日) 健スポ演習開講に向けた意見交換、2026年度時間割について、その他</p> <p>第3回(7月16日) インクルーシブスポーツコース授業シナリオについて、2026年度以降健スポ演習非常勤任用方針について、その他</p> <p>第4回(9月17日) 健康キャンパス・プロジェクトについて、同一年度内再履修ならびに工学部編入生対象実習コマについて、その他</p> <p>第5回(10月15日) 授業備品等について、教学アセスメントについて、その他</p> <p>第6回(11月19日) 2026年度入学生用科目要覧について、スポーツ教育施設の課外活動における使用について、その他</p> <p>第7回(12月17日) 健スポ演習新規非常勤教員任用について</p> <p>2026年度健スポ演習時間割(案)ならびにシラバス(案)について、その他</p> <p>第8回(1月21日) 演習開講に向けた進捗の共有について、アリーナ使用ルールについて、その他</p> <p>第9回(2月18日) 演習開講に向けた進捗の共有について、その他</p> <p>第10回(3月18日) 2026年度健康・スポーツ科学科目の開講方針および評価方針についての検討、その他</p>	10
教務担当教員会議	<p>第1回(7月7日) 2025年度後期開講科目について、インクルーシブスポーツクラスの授業シナリオについて、その他</p> <p>第2回(7月31日) 2025年度後期実習開講に際する調整事項について、演習の開講方針について、その他</p> <p>第3回(9月2日) 2025年度後期実習備品の配置、格納について、その他</p> <p>第4回(9月25日) 2025年度後期実習ガイダンス、体力測定実施方法について、その他</p> <p>第5回(11月27日) 2026年度健康・スポーツ科学演習新規非常勤任用方針について、2026年度健康・スポーツ科学演習時間割(案)ならびにシラバス(案)について</p> <p>第6回(12月4日) 2026年度シラバス(案)について、新入生ナビ案内ページならびに掲載動画について、2026年度健康・スポーツ科学演習授業ならびに授業外学修方針について、その他</p> <p>第7回(12月18日) 2026年度健康・スポーツ科学演習授業ならびに授業外学修方針について、その他</p> <p>第8回(1月8日) 2026年度健康・スポーツ科学演習授業ならびに授業外学修方針について、その他</p> <p>第9回(1月22日) 2026年度健康・スポーツ科学演習授業ならびに授業外学修方針について、その他</p> <p>第10回(2月18日) 2026年度健康・スポーツ科学演習授業ならびに評</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>7</p> <p>6</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>4</p>

	価方法について、その他	
カリキュラム編成にかかる意見交換会	2025年5月23日(金)16時00分~17時00分 2026年度以降の健康・スポーツ科学実習の演習化に向けた開講方針について、その他	10
【数学 G】		
数学科目委員会	第1回：来年度の時間割について 2026年度入学からの各学部・学域のカリキュラム変更とそれに伴う要望について・来年度のTA配置について・6/25	7
数学科目委員会	第2回：工学部からの2年次科目への要望に対する回答案(解析・統計)の審議・8/7	7
【物理学 G】		
物理学分野会議 (なかもず地区)	第1回(4月3日)、第2回(5月8日)、第3回(6月5日)、第4回(7月3日)、第5回(8月7日) 各回とも、非常勤講師手配を含む物理学科目(講義・実験)の運営、森之宮キャンパスへの移転準備等について検討。	4人
物理学分野会議	第1回(10月27日)、第2回(12月1日)、第3回(1月26日)、第4回(3月2日) 各回とも、非常勤講師手配を含む物理学科目(講義・実験)の運営等について検討。	5人
【化学 G】		
化学グループミーティング	「第1回(4月21日)工学・理学のカリキュラム改定案、および基礎化学実験新指導書の業者について」 「第2回(5月19日)基礎化学実験新指導書の業者へのデータ引渡しについて」 「第3回(6月23日)工学部と医学科、理学部化学科はカリキュラム変更、および基礎化学実験新指導書の校正について」 「第4回(7月21日)基礎化学実験新指導書のサイズ確認について」 「第5回(9月22日)森之宮での出席確認方法、および生成AIの教員向けガイドラインについて」 「第6回(10月20日)定期試験不正発生時の連携方法、および教育研究用有償ソフト費用負担制度について」 「第7回(11月17日)基礎化学実験新指導書の二稿修正について」 「第8回(12月15日)基礎化学実験新指導書の三稿修正について」 「第9回(1月19日)生成AIの利活用に関する職員向けガイドライン、および基礎化学実験新指導書の最終チェックについて」	5
【キャリアデザイン G】		
高度人材育成推進センター定例会議	第1回(4月11日)アドバイザー委員会運営要領の一部改正について、他 第2回(5月23日)高度人材育成推進センターのイベント・プログラム、	教職員合計 23名 23名

	他 第3回(6月27日) 高校生起業家教育講座概要、他 第4回(7月18日) リーディングプログラム関連報告、他 第5回(8月22日) Fledge プログラム関連報告、他 第6回(9月27日) FInD・Fledge プログラム事業状況、他 第7回(10月24日) アイデア創出ワークショップ関連報告、他 第8回(11月21日) ビジネスアイデアコンテスト関連報告、他 第9回(12月19日) 学術交流協定の継続および新規締結について、他 第10回(1月23日) 総合教養科目国際活動とキャリア E・F・G について、他 第11回(2月20日) ニューメキシコ大学ダブルディグリー調印式報告、他 第12回(3月27日) 国際活動とキャリア報告、他	20名 23名 24名 19名 23名 21名 21名 22名 22名 20名
リーディング大学院プログラム教員・メンター会議	第1回(1月27日) SiMS 特別研究(研究室ローテーション)の運用方針、他 第2回(3月12日) SiMS 特別研究の実施申請書改訂方針決定、他	3名 4名

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組

【大学教育 G】

<大学教育 G>

・大学教育 G メンバーは、高等教育研究開発センターの専任研究員として、多様な全学 FD の企画・運営を担当するとともに、他部局の部局 FD 等の支援を行った。(高等教育研究開発センターの FD 関連業務については、別途報告予定。)

・大学教育 G メンバーを含む高等教育研究開発センター研究員が同センターにおける本学の教育改善・FD や教学 IR の事業の推進に活かすことを目的として、同センター会議の内の3回(10/3、11/7、2/6)において、兼任研究員個人や所属部局の教育実践・改善事例についての報告・質疑・議論を行った。

<初年次教育科目委員会>

・昨年度に引き続き、教育推進課のポータルサイトに、初年次ゼミナール専用ページを設置し、各種情報を集約して、担当教員がアクセスしやすくした。

・初年次ゼミナール担当教員と受講生へのアンケート調査を実施した。またアンケート結果は、「大阪公立大学大学教育」第4巻に資料論文として掲載された。

・2026年度からの初年次ゼミナール開講形態の変更も踏まえて、OMU ラーニングセンターが開発しているレポート執筆やプレゼンの仕方に関する自習用教材の掲載状況の整理を依頼した。

【英語 G】

2025 年度前期 全学共通教育英語科目に関する教員アンケート調査の実施

2025 年度前期 全学共通教育英語科目に関する学生アンケート調査の実施

2025 年度後期 全学共通教育英語科目に関する教員アンケート調査の実施

2025 年度後期 全学共通教育英語科目に関する学生アンケート調査の実施

学生アンケート等から得た情報に基づく非常勤教員への授業運営改善依頼

TOEIC IP 実施結果に関するフィードバックの確認と情報共有

非常勤教員からの授業内容・運営に関する質問・相談への対応

University English 1A・2A 新カリキュラム授業運営情報配信（3月に予定）

【人文社会科学 G】

- ・FD 関連の情報をグループの教員会合等にて随時共有し、意見交換をおこなった。
- ・FD セミナー等への積極的な参加や、ピア授業参観の実施を呼びかけた。

【教職 G】

教職グループは、全員が教職センターの所員として同センターの活動に参画している。教育実習の事前・事後指導および教職実践演習等については、教員が連携して授業改善に継続的に取り組んでいる。また、各担当者は、教職科目のコア・カリキュラムを反映したシラバスの作成と授業運営に努めている。

【初修外国語 G】

<朝鮮語>

定期的に朝鮮語教育に関する有益な情報を共有している。またシラバスの検討を含め、教材の活用や「韓国語 WEB 教室」の活用方法、授業進度や評価方法等について、情報を共有すると共に意見交換を行った。

<中国語>

全担当者（非常勤講師を含む 39 名）をメンバーとする Teams のチームを作成し、中国語教育の改善に役立つ情報の配信を開始している。Teams の分析機能によると、2025 年 10 月 29 日から 2026 年 1 月 26 日までの 90 日間に「投稿 18、返信 1、リアクション 25、メンション 16」があった。今後も定期的に配信する予定である。

2026 年 3 月 23 日に中国語担当者講師会（Zoom によるオンライン形式）を実施し、本学の中国語教育に関する意見交換を行った。

<ロシア語>

2025 年 4 月 4 日のロシア語科目の会議の準備

2025 年 4 月 4 日のロシア語教育の問題に関するウェビナーの準備と実施

Google Classroom プラットフォームおよびメールを通じた非常勤講師とのやり取り:ロシア語科目の重要な変更、お知らせなどについて。2026 年度からは、非常勤講師とのより充実した交流と教育資料の相互交換のために、Teams グループを設立する計画です。

ロシア語科目の学生向けグループの枠組み内で非常勤講師と共有する:補助教材の出版、オンラインコミュニケーションの組織化、文化学習資料の出版。2025 年 3 月 11 日から 2026 年 1 月 31 日まで「ポスト 40、返信 41、リアクション 149、メンション 28」。今後も定期的に配信する予定である。

<ドイツ語>

・授業担当者を対象にグーグルフォーム等を使って学期ごとに授業アンケートをとり、授業運営上の課題や問題を分析した。

・非常勤講師も含めてオンライン会議を開催するための準備を進めている（3 月開催予定）。それぞれのクラスやコースに適した教材や授業進度、シラバス記載内容等についての相互チェックと意見交換を行う予定である。

・学期中、授業運営にあたって有益と思われる情報（留学情報含む）を授業担当者間で適宜共有した。

<フランス語>

- ・非常勤講師を含む全担当者との連絡用にメーリングリストをすでに設置しており、そこから教育改善に関する情報の交換・共有を行った。
- ・ツール大学大学院から FLE（外国語としてのフランス語教育）専攻の大学院生 2 名を受け入れており、フランス語基礎/会話およびフランス語特修の一部クラスで教育実習を行った。
- ・フランス語クラスで、学生アシスタント（SA）やフランスの交流協定校から受け入れた留学生（日本語学習者）の参加により、学生間交流と学びの活性化を図った。
- ・上記に関連してコミュニケーションツール（Line group）の利用を試行した。
- ・フランス語教員を目指す大学院生に対し、TA や TF の経験に加えて、FLE（外国語としてのフランス語教育）教員養成スタージュ受講を推奨した。
- ・商学部・文学部で行われているル・アーヴル大学との短期交換留学プログラムに関する情報交換会を開催し、プログラム発足の経緯や現在までの運営、ホストファミリー側の視点、参加した学生の声、日仏の学生受入れ体制の違い、今後の課題について報告と意見交換をおこなった。
- ・フランス語教育、その他の外国語教育に関する学会や研究会、シンポジウム、講演会への参加を通じ、教育法や学習者支援、授業改善等についての新しい知見を取り入れることを推進した。

【特例科目 G】

- ・森之宮キャンパスへの移転にともない、日本語科目を受講する留学生（特別履修生）の円滑な履修をはかるため、中百舌鳥キャンパスから森之宮キャンパスへの引率および関連教員との顔合わせ、履修指導を行なった（9月24日）

【健康・スポーツ科学 G】

- ・各教員が全学 FD 研究会などへ積極的に参加し、FD に対する意識づけを図った。
- ・障がいの有無にかかわらず誰もが参加可能なインクルーシブスポーツコース・レクリエーションコースをひきつづき試験的に開講し、参加学生へのモニタリング、授業内容の検討を行った。
- ・健康・スポーツ科学科目委員会において、2026 年度に開講する健康・スポーツ科学演習の開講方針、授業内容、授業展開、成績評価方法などについて検討を進めた。
- ・スポーツ教育施設の整備、機材の精選などを行い、さらなる授業の質的向上を目指し、学生満足度の高い効果的な授業展開を行うための検討を進めた。
- ・これまでに実施してきたプロジェクト型研究の成果を各授業に適用することで、学生の好奇心の充実を図り、さらに魅力ある授業の展開をめざして活動した。

【数学 G】

- ・数学相談室の運営
- ・Moodle ・STACK(オンライン数学テスト)のコンテンツ開発・修正
- ・授業担当者への個別相談・指導

【物理学 G】

- ・森之宮キャンパスについて、後期から実験ができるよう物理学実験室の環境整備を行なった。
- ・円滑に実験授業が実施できるよう、日々、実験で用いる機器類の保守・管理を行い、その整備状況等について情報共有を行った。

- ・非常勤講師に対して Moodle の利用方法について教示した。
- ・2024 年度の物理学科目について、教学アセスメントリストに基づき年次点検評価を実施し、報告書を提出した。

【生物 G】

(1) SEL 教室において提供されている接続教育教材について各担当授業（前期中百舌鳥）内にて紹介し、受講者に活用を促した。高等学校における教科内容（範囲、深度）について、担当教員間で共有した。

(2) 成績評価・到達度評価の方法と基準に関して、到達目標・授業科目の概要を共通とする同一科目名のクラス間で、齟齬をきたさぬよう、開講前と成績評価時に打ち合わせと調整の機会をもった。

(3) 2026 年 3 月 4 日に、総合技術課主催の講演会【「理科教育の現在地と課題」－探究の位置づけ、4 領域が目指すもの、国際学力調査の解釈－】に参加し、理科教育の現状と課題について確認する機会を持った。

【地学 G】

機構科目の GPC データなどは理学部地球学教室の教員全員と共有し、FD 活動に役立てていただいた。

また合理的配慮学生の学習支援のため、地球学教室の 2～3 名の担当教員と複数回の会議を行い、適切な対応のための相談の機会を設けた。

【キャリアデザイン G】

5月30日 C-ENGINE第12回通常社員総会、講演会

6月3日、6日、12月15日 ダブルディグリープログラム会議

5. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (75) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (75) 人

6. その他、追記事項

【英語 G】

University English 1A・2A・1B・2B 学生の学修ふり返り (Unit Reflection) 結果の教員別集約および My Showcase を通じたフィードバック実施 (2022 年度より継続。2025 年度実績として、University English 1A・2A において年内計 6 回、同 1B・2B において年内計 7 回実施)

【数学 G】

非常勤講師説明会は、授業担当者説明会として非常勤以外も含む形で年度末に実施予定。

【地学 G】

6 月に作成した計画どおりに実施している。森之宮キャンパス移転後、理数自習のための SEL 教材の活用に関しては、OMU ラーニングセンターのスタッフの皆様の協力を得て実施できた。